

第 17 回高等学校改革プラン推進委員会（第一推進委員会）議事録

1 日時 平成 18 年 1 月 14 日（土）午前 9 時 30 分～午後 1 時 00 分

2 場所 長野県庁西庁舎 1 階 111 号会議室

3 出席委員

中村 正行委員長	市川 浩一郎委員
森野 貞雄副委員長	若麻績 享則委員
青木 一委員	清水 保委員
中沢 一委員	小山 壽一委員
小山 元彦委員	宮本 精一委員
塚田 芳樹委員	丸山 稔委員
牧 重信委員	

4 開会

（三澤教育支援主事）

皆さま、おはようございます。

それでは、時間となりましたので始めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

それでは委員長さん、よろしくお願いします。

（中村委員長）

それでは、第 17 回の高等学校改革プラン推進委員会を開催させていただきます。まず本日の資料の説明をいただき、その後議事に移っていききたいと思います。

資料説明の後、資料に関する質問を受けまして、その後で皆さん方のお持ちの情報をまたご提供いただきたいと思います。

それでは事務局、お願いいたします。

5 資料説明

（三澤教育支援主事）

それでは、資料の説明に先立ちまして、他の推進委員会の様子についてお話しさせていただきます。

まず第二推進委員会、東信地区でございます。1 月 9 日に、第 16 回の委員会が行われておりまして、多部制・単位制についての議論が行われております。生徒数の減少から、佐久市南部で再編が必要であることなども考慮して、候補案の野沢南高校を転換するという賛成意見が多く出されました。

推進委員会として、一定の方向を決めていく時期でもあるということで、まず候補案について可否を判断して先に進むこととし、出席した委員の中で投票を行いまして、野沢南高校を転換していくという委員会としての方向性が出されております。

次に第三推進委員会、南信地区でございますが、1 月の 12 日に第 14 回が行われております。第 7 区、諏訪・岡谷地区になりますが、第 7 区の統合について地域のコンセンサス

が得られていないので時間が必要といった意見も出されております。どの地区でもコンセンサスが得られ、再編案を提示しているわけではないといった意見が出されておまして、第7区については、次回結論を得るということになっております。

それと県教委への報告書には、実施時期については意見として記入していくこともあり得るが、技術的なことは言及しないこととした。諏訪地区では理解が得られていないといったことを付記してもらいたいといった意見も出されております。上伊那農業定時制については、箕輪工業を多部制・単位制に移行するということで合意しております。それと飯田長姫高校、飯田工業高校の統合について再確認がされております。

第四推進委員会、中信地区でございます。1月9日に第16回が行われております。第四推進委員会につきましては、委員会としての再編整備、魅力ある高校づくりの、一応方向性が出そろっておりまして、最終報告書の作成に向けて検討がされているというところでございます。

以上が、他地区の推進委員会の状況であります。

本日の資料といたしまして、委員さまの資料でお配りしておりますが、ひとつは飯山北高校同窓会桂蔭会さまから、中高一貫教育による魅力づくりに関する提案ということでまわっております。それともうひとつ、第一推進委員会あてに上田高校、上田千曲高校の定時制存続についてということで、お願いがきておりますのでご覧いただければと思います。

以上でございます。

6 議事

(中村委員長)

まず、資料についてのご質問がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

本日、少し厚い冊子で皆さん方に先ほどお配りしたのは、これまでの推進委員会の議論の内容を、私のほうでまとめたものです。後ほどまた説明いたしますが、まだ議事録が出ておりませんので途中まででございます。

これを基に、報告書へ内容をまとめていきたいと思っております。またきょう多部制・単位制、それから4区のところの議論にも、ちょっとごらんいただき、これまでの経過を確認していただければと思います。

それでは地域の情報等皆さんお持ちでしたら。ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。また議論の途中でも結構ですので、関連することがあればお願いいたします。

それでは、議事に移りたいと思いますが、前回多部制・単位制について話し合っていたきました。これはこの委員会では数回にわたって出てきた議論を、おそらく総まとめのような形でご議論いただいたと思います。一定の方向を、推進委員会の結論として出していきたいと思っておりますので、魅力をつくり出せるシステムとして配置を考えた場合にどうしたらいいか。利便性、地理的条件を考えて、今候補に挙がっております2校、坂城高校と屋代南高校、そこを中心に方向性を出したいと私は考えております。

その辺も含めまして、議論をお願いしたいと思います。両校の課題をということで何回も申し上げて、2、3、課題になるようなこと、坂城高校を転換した場合、屋代南高校を転換した場合ということで、課題を挙げていただいております。まだこのほかにありまし

たら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

坂城の場合には、ひとつ大きな問題は、ひとつの地域から全日制の普通科がなくなってしまうところが大いかに思ひます。

それから両校の場合、第1通学区を基準に見た場合には、中心部からの交通の利便性は非常によろしいかと思ひますが、距離的に見ると遠いというものがあります。第2区を合せて考えた場合には、そういう課題はそれほど大きくはないとは考えられます。

またそこに派生して、北信濃からは通いにくいというものもございますが、そういった面も考えてご発言をお願ひしたいと思ひます。いかがでしょうか。

(市川委員)

今までわれわれが議論しているのは、多部制・単位制は坂城あるいは屋代南ということで推進している。これは原則的に、それでいいと思ひますが、ここで少し考えなければいけないのは、この多部制・単位制の坂城と屋代との問題と、それから松代と長野南との問題というのも、これは非常に関係が重要ではないかと感じております。

というのは、まずひとつは多部制・単位制の、例えば屋代南としたとき、屋代南の普通科を目指している子どもたちは、どこへターゲットを求めるかということ、通学の利便性とか、今までの状況からいうと松代あるいは長野南に行くという選択肢が取られるのではないかと考えられます。

ところが一方で、松代と長野南で、どちらかへ統合するという問題も今発生しております。仮にどちらかへ統合した場合は、屋代南、それから長野南、松代の3つの普通科が1つになってしまう。これは、子どもたちに対して選択肢を取ってしまうということで、これは非常に重要な問題じゃないかと感じておまして、この両校の問題を考えますと、もし屋代南に多部制を持っていったとしたら、私は松代と長野南は存続すべきであると思ひます。そして子どもたちに選択を与えるべきであるというのが、私の意見でございます。

それから逆に、長野南と松代の問題で、これはいろいろまだ議論すべき点がありますが、もしどちらかへ統合となった場合は、今の発想でいくとやはり普通科は1つになってしまう。その場合は、今度は屋代南を普通科にすべきということは、存続すべきであると。そして坂城高校へ多部制を持っていくのなら、それにすべきであると思っております。これをじゅうぶん検討しないと、私はこの問題は解決できないであろうと思っております。

ですから、結論を申し上げるのは早いですが、一応今、そのように考えておまして、この辺をじゅうぶん議論して、今も多部制・単位制の問題と松代と長野南との問題を切り離すのではなく、総合的に考えないとわれわれの選択肢は間違えてしまうということを感じていただきたいと思います。

(中村委員長)

選択肢が減ってしまうというご指摘をいただきました。ご意見ありますでしょうか。

(中沢委員)

先ほど市川委員さんから、松代あるいは長野南との関連でというお話になると、また原点からのいろいろなお話が出てくるかなと思います。

大事なことは、まず私がしばしば申し上げているように、70パーセントの皆さんが全日制の普通科を求めているという中において、その地域の普通科がそれぞれ適正に配置されているということを原点にまず考えるべきだと思うわけでございます。その上に立って、職業科はどうだ、あるいは多部制・単位制はどうだということの位置づけをすべきであって、例えば坂城の場合ですと、上田と屋代ということで、坂城が除かれますと、約20キロの中に坂城高校がございしますが、坂城の人たちは、普通高校の選択がなくなってしまうと。しばしば申し上げますように、小諸から長野までの間には、今の適正配置では全日制は10キロ以内で1校ずつ配置されている、その適正ということをより重視するべきだと思うわけでございます。

それと、もうひとつは、これはある程度方向が出ておりますが、松代あるいは長野南の場合は、須坂にいくつかの高校がございしますので、そういった面からの対応ということがよりベターで自然な形かなと思うわけでございます。

(中村委員長)

同時に議論というのは、確かによろしいのですが、お考えいただきながら、やはりまず多部制・単位制を中心的にやっていきたいと思います。その中で、ご意見をいただく分には構わないのですが、両方というのはちょっと議論の進め方として、やりにくいのではないかと思います。

それと多部制・単位制に関しては、もう既に数回だと思えます。推進委員会の丸々1回分を使って数回議論をしてきておりますので、ある程度皆さんのお考えは一定の方向を向いているのではないかと私は判断しておりますので、市川委員のご意見も考えながら、多部制・単位制の配置について、まずお決めいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(森野副委員長)

なかなか議論が進みませんが、県教委にお聞きしたいのですが、現在あります定時制の生徒の絶対数といいたしましょうか、どの学校へ何名学習に参加しているかという、その数。そしてまた出身校がわかれば、示していただきたいと思えます。

それによって、そのエリアというようなものが出てくるのではないかと、そのように考えるわけですが。難しいでしょうか。

(中村委員長)

事務局、いかがでしょうか。

(三澤教育支援主事)

はい。定時制の生徒数でございしますが、候補案の細かい説明をさせていただいた資料のところにございます。

資料の11ページになるかと思います。候補案の説明をする中で、坂城高校と長野吉田高

校定時制、長野商業高校定時制、篠ノ井高校定時制、上田千曲高校定時制、上田高校定時制、長野西高校通信制の再編というページがあるかと思います。

そこに一応北信地区、東信地区の生徒の在籍数は掲載させていただいております。中学校ごととなりますと、ちょっと今このページにはございませんが。

（森野副委員長）

その数字が、ほしいのです。どのような地域から生徒達がやってくるのか。高校の数はこれでわかりますが、今言ったものがあると通学範囲というのが出てきますね。そうすると、屋代にするのか坂城にするのか、その辺の通学距離的なことから、人数から、地域性というものが出てくるので、そこへ絞ってみたらどうかなと思うわけなんです。

もともとは勤労学生というような立場で定時制がございましたが、そういった諸情勢でございますので、できるだけ広範囲に子どもというものを教育していきたいというのが立場だろうと思いますが、もしおわかりならば中学校別にどのような生徒が通学しているのか。そしてまた夜間なのか、あるいは午前、午後の子どもの通いやすいのかというような条件的なことも考えていきたいと思いますが。

（中村委員長）

事務局、お願いします。

（柳澤教育主幹）

今の、定時制の在籍数につきましては、説明させていただきました資料の中に学校ごとのデータが掲載されておりますが、今の中学校ごとというのは、今、直ちにここでは資料がございませんが、ご用意できるかと思います。しかし、多部制・単位制につきましては前々からご説明申し上げておりますが、単なるいわゆる今の夜間定時制の延長ということではなく、全く新しいひとつのシステムとして新しい学校をつくると、こういうことでございまして、当然午前から午後まで通して昼間学習していることになるわけでございますので、そういう意味では非常に多様なニーズに対応できるということで、そのつくり方にもよるかと思いますが、今までの夜間の定時制ということとはまた異なる学校とお考えいただければありがたいと思います。

（森野副委員長）

現在県で各中学校からどういう子どもが不登校であり、あるいは問題を抱えた子どもであるかと。それでこの子たちは、将来的には、多部制を進むであろうというような予測はつけられていらっしゃるのでしょうか。

（中村委員長）

事務局お願いします。

(柳澤教育主幹)

今お話ししましたように、必ずしもいわゆる不登校の経験のある方とか、それだけの学校ということではございませんので、積極的にこの多部制・単位制というシステムを活用していただいて、そこで自分の進路希望を実現していただくような、そういうニーズに応えられる学校でございますので、幅広く、また生涯学習というようなことも含まれておりますので、多様な学習ニーズに応えられる学校と考えております。

(森野副委員長)

そうしますと、できるだけ通える、通学に具合のいい、そういう場所の選択ということになってきますよね。ですから先ほどもありましたように、地理的条件あるいは利便性という2面から押していけば、おのずから位置的なことは出てくるような気がするのですがいかがでしょうか。

(中村委員長)

利便性については、もうそれがかなり有効な条件だということで議論いただいてきますので、その辺は例えば駅からの距離や、長野市あるいは少し先から通える時間等、事務局でデータ等がありましたらお願いしたいと思います。

利便性について駅からの距離、一度ご説明はいただいたと思いますが、アクセスの状況ですね。時間的なものでも結構ですが。多分多様な通い方ということで、交通機関もバスや電車、その他自転車、徒歩等あると思いますが、一番広い範囲から人を集めるには、やはり電車の公共交通機関だと思いますが、その辺を事務局お願いいたします。

(三澤教育支援主事)

はい、すみません。ちょっと先ほどのご質問で、中学校ごとに定時制、どういうふうに行っているかということで、ちょっと今見直しましたら、推進委員会の第4回の資料6でございますが、各中学校別に旧通学区別に公立定時制ということで何名進学されているかという表が出ておりますので、そちらでもご確認いただけるかと思います。

それと今の交通の部分でございますが、前回屋代南高校についてだいたいどのぐらいの時間がかかるかということで、鉄道の路線上の時間、それと駅から高校までの時間ということでご紹介させていただいております。おおよそ長野駅から屋代南高校がございます屋代駅までは20分ほどでございます。そこから徒歩で、だいたい7分、10分弱ぐらいということで前回資料をお出ししております。

それと坂城高校につきましては、坂城駅でございますが、おおよそ長野駅からですと30分弱ぐらいじゃないかと思われます。それと坂城駅から坂城高校までが歩いてだいたい15分ほどというような所要時間になっております。

あと、坂城 - 上田間がおおよそ10分程度になるかと思います。

(中村委員長)

資料は第4回のときにお配りいただいているということですが、本日のこの資料をお持ちでない方も多分いらっしゃると思いますが、そのときもおそらくご検討いただいているはずですので、地域性も大事なことでございますが、やはり第1通学区内から大方が通えるところに配置するという観点で、ぜひ進めていただきたいと思います。

(森野副委員長)

どうもありがとうございました。

(宮本委員)

今、委員の皆さんから出ています単位制と普通科のことについて、場所的なことが問題になっています。私は普通科と単位制について、それほど大きな違いはないと考えています。

基本的に高校の授業については、大きくいえば単位制でありますので、必ずしも今出ていますような定時制の子どもたちだけではなく、もし単位制ができれば普通科に希望する生徒自身も単位制に行く生徒もかなりいると思います。

中学校の段階で学校のシステムが単位制なのか学年制なのか、前にも話しましたが、そんなに子どもたちにとっては大きな問題ではないし、どちらかという普通科に行く生徒が少ないとか多いとか、そういう問題でもなくて、子どもたち自身は魅力ある学校だということになれば、普通科だろうが、単位制だろうが、多部制だろうが、そんなに大きな違いはなくて、自分の行きたい高校を選ぶと思います。

もうひとつ場所的なことですが、以前の委員会でも話しましたこの旧4通、今話し合っている坂城、屋代南があるところは、私の中学校もそうですが、かなり流動性が高くて必ずしもその学校に行くという傾向ではありません。もう2回やりましたが、県の資料を見ますと、かなり流入、流出が旧3区に近づいているぐらいにあります。

年々多くなってしまして、必ずしもそこへ行くのではなく、上田方面、あと長野方面ということで、必ずしもその普通科に行くという生徒じゃなくて、交通の便がいいものですから、坂城だろうが、屋代南だろうが、そうは利便性については関係がないと思っています。

もうひとつおのずからという話が、今、現在坂城高校と屋代南高校が出ているのですが、坂城高校については県の再編整備候補案ということで、トータルで出されています。今、市川委員から、かなりトータルで考えたほうがいいのではないかということで出された意見ですが、確かに県で出したものはある程度配置をうまく考えて出しています。

そこへ私たちとしては問題点や、こっちのほうがいいのではないかというような意見を、今この委員会で進めているわけですが、少しずつずれが出ていることは確かだと思っています。

だから今、市川委員から出ましたが、トータルに考えることは確かにいいのですが、話し合いとしては委員長さんが言われるように難しいところがありまして、最終的には県でもう一度ある程度トータルに調整し直さなければいけないようなところも出てくるのではないかなというのが私の意見です。

もうひとつ言わせてもらいますと、屋代南高校について、今利便性だけ考えればおのずからという話も出ましたが、以前にも私は話しましたが屋代南高校は近くですので、何回か行ったことがあります。敷地としてはかなり狭いです。それと先日、第二推進委員会を傍聴させていただきましたが、そのときに県からは次のような説明がありました。

野沢南高校を候補案に載せているのですが、臼田高校を考えなかったのかという話で、「臼田高校には、職業科がある。教室の配置等を考え、野沢南高校は普通科だから、その転換をそのときには適正と考えた」という発言があったと思います。

この場合に、私は苦になっているのが、確かに屋代南高校は場所的にはいいのですが、ライフデザイン科があるわけですね。教室についても、なかなか難しいつくりになっていることもあったり、先日県へ質問した際の回答では問題ないだろうという話でしたが、かなり改装とか、いろいろな面では直さなければいけない面があると思います。

それと北信地区で被服関係の科というのが、以前皐月にありましたが、これがなくなってしまうと子どもたちにとっては、選択の幅がなくなるかということで、もし屋代南高校を転換するならば、多部制・単位制の中に位置づけるのか、それとももっと違うところにあるということも配慮は必要かなということで、少し問題点があるような気がします。

だから屋代南高校と坂城ということについて、今挙がっていますが、まだなかなか皆さんの意見を聞きながら私も考えていますが難しいなという気がします。どちらもいいところもあるし、どちらもまずいところもあるというような気がして、なかなか決めかねているのが現状です。

(丸山委員)

今の宮本さんのご意見のところ、ちょっと疑問があるというか、イメージが少し違うなと思いますが、全日制と多部制・単位制について宮本さんが言ったとおりでしょうかね。

多部制・単位制は基本的には、多部制ですから、午前の部、午後の部、夜の部とあるわけです。それはつまり自分の行きたい時間帯に行ける。しかもそれは取れる単位は取って、自分の計画で必ずしも3年ではなくて4年かかってもと、つまり勉強で単位を取って、高校で卒業するのに必要な単位を取ることが基本になっている学校だと思います。

それでは困るので実際にはホームルームをやったり行事があったり、当然するわけですが、基本的にはそこが中心じゃないんですか、多部制・単位制というのは。

例えば、太田フレックスのときに説明がありましたが、午前の部の生徒の中には進学を目指して、ちょっと言葉は悪いですが、進学に必要な科目はやりたくない。進学に必要なものだけ単位を取って、それで自由勉強を中心にやって大学を目指すという子も来ているという話もちょっとありましたね。

そういう点では単位をそれぞれ個別に取って、それで高校卒業の資格を取っていくと、学力をつけていくということ含めてですが、そういうことが中心だと思うのです。だけどそれでは高校としてはなかなか、友達の関係や、行事の関係、その他のことで学ぶこともあるわけだから、それはそれでやりにくいから工夫しているわけです。

ただ実際は、いくつかの多部制・単位制を見ていくと工夫はしているが、やっぱり3部あると生徒会活動だってなかなかやりにくいし、ホームルーム活動だってやりにくいから一定の工夫はしているが、不十分なわけです。

全日制というのは、つまり学校の時間が朝から夕方ということで決まっていて、その中にはもちろん授業が中心にあるが、それ以外いろんな活動が組めている。それをトータルとして学校だということがあると思います。

そこが、単位を取る、学力をつけるということだけを中心に考えたら同じですが、その他の部分がやっぱり全日制普通科のほうが、ずっとその他の部分の活動というか、高校の生活の、トータルとしての活動としては、いろいろ豊かにできるので、それでみんな全日制ということになると思います。

ですから全日制普通科がなくなるという意味と、それは多部制・単位制があるからいいじゃないかということにはならないというのがひとつですね。

それからもうひとつは、これは後で議論をお願いしたいのですが、私が前から言っているように、夜間定時制に行くこと、多部制・単位制を遠くてもいいから行こうとする子は違うと思うのです。

だから定時制がなくても、多部制・単位制があるからどこからでも多部制・単位制へ行けよということにはならないと思うのです。県も定時制の削減の問題は、これは削減しすぎだと思うのです。そこは後で議論してほしいのですが、つまり多部制・単位制を目指す子は、確かに遠くてもいいからそこを目指していきたいという子があるのかもしれないですが、定時制を全部、今の計画のようにつぶすとしたら、やっぱり利便性を考える必要がある。

最後ですが、私はこの2校の問題については前から言っているように、2校ともこれは転換することは難しいと。坂城については、もちろん1つの町に1つの学校という地域性の問題がある。それから普通科の配置の問題がある。それから屋代南についても、さっき宮本さんがおっしゃったことに、私も賛成ですが、被服科という独特な学科があります。家庭科という独特のものです。そこを本当に生かせるのかどうかという問題があります。

しかも現場から、地域から、これを生かして新しい学校づくりをしたいという提案も出ているわけです。そういう点では、この2つの地域は地域からも現場からも納得されていない。これが私は大きいと思うんです。多部制・単位制の本当にいい学校をつくる、地域とつながった新しい生涯教育の拠点としてつくるといことになるとしたら、もっと地域や現場の理解を得た上でないとだめだから、これはなかなか難しいなと思っています。

前から言っているように、無理やり1つの学校を転換して多部制・単位制をつくるというやり方ですから、そのところは本当にある程度はしょうがない、ちょっと言い方は悪いですが、中野地区において仕方ない、事情もわかる、何とかそのような形で新しい学校をつくっていこうと合意というか方向性が、地域や現場で出てこない限り、つくるのは現場だ、地域がつくるわけですから、だから2校を、なかなか2校に絞るといのは私は前から言っているように問題あると思っています。

(中村委員長)

もう一度戻しますが、これまで数回にわたって議論をしてきましたので、ほぼ論点は出尽くしていると思います。今、新たにというかこれももともと挙がっていることですが、地域の了解が得られない。だから推進委員会では方向性を出せない。そこはちょっと違うと思います。

お互いに考えていく。屋代南高校からは、何回か2回にわたって直接要望書をいただきましたし、坂城もいただいています。これは候補案に対する反応、それから推進委員会への議論への要望ということでいただいていますし、これがもう既にそちらの地域との話し合いの一部だと思います。

そういった要望をいただきながら、われわれは第1通学区の範囲内で必要としている多部制・単位制を配置していく、その結論を出していきたいと思っています。

それから多部制・単位制へ行きたい生徒と、定時制へ行きたい生徒は違う。多分そうでしょうが、今度新しく多部制・単位制が選択肢として入ってきます。ですからつくった後で、配置した後もこれも現場の努力に期待するところが大きいと思いますが、さらに魅力をつくっていただきたい。そういうこともあるかと思います。

今ないものと比較して、多部制・単位制には行かないのではないかとすることは、ちょっとおかしいのではないかと思います。

もう一度戻しますが、2校で決定的な課題があれば、また挙げていただくのはよろしいかと思いますが、2つの高校でどちらかに決めていくということには、私は100パーセント満足というわけではありません。しかし、これまで話し合った中では2校で決定していいのではないかと思います。またご議論、ご意見いただきたいと思います。

(牧 委員)

いろんなバックグラウンドを考えると、総論は賛成だと。改革の問題やすべての面で。各論になるといろいろご意見があったり、地域の代表であったり、いろいろしますから、いろいろ問題があるかと思いますが、前々から私は多部制・単位制は長野市の中心地という話をさせてもらっていたのですが、それはベストであると。ではベターはどこかというのであれば、これも毎回のようにスタートのころお話をいただいているのですが、私は地域の普通科というのはなくなっちゃいけないと思っています。

高校生の70パーセント以上の生徒さんが、普通高校を目指して、それぞれの地域で頑張っていますから。私はやっぱり普通高校をもっともっとしっかりさせたいと思います。多部制・単位制は利便性や、都市機能のいいところに特殊な学校といいますか、特長ある学校といいますか、そういうのは持ってくるべきだと思います。

ですのでベストがダメならベターはどこかということですが、もっと私はやっぱり坂城よりもどちらかといえば長野市よりの、あるいは長野市内の学校の中で検討すべきだと思っておりましたので、今お話が出ております屋代南高校がいいのかどうかということは別にして、考える必要があるかなと思っています。ここで決めなければいけないということであれば、それぞれの意見、委員の皆さん方に諮るしかないと思います。

委員会のまとめとしての話ならいいのですが、決定する話であればちょっと待つてほしいなというような感じはしております。

(市川委員)

今、牧さんのお話のように、これはこの委員会でどうしてもそういうものを具体的に校名を挙げることが最終的な結論にしないといけないのでしょうか。答申案として前にも委員長がおっしゃったように、議論があっても尽くせないから懸案事項であると、懸案と言っ

ちゃおかしいですが、検討すべきという答申だっていいんじゃないですか。

私はそこでこれほど難しい問題の中で、無理に例えば多数決だとか、そういうもので決めるというものは、私はちょっと反対です。ですからもし皆様のご意見であるとしたら、この検討期間を置いて、具体的な名前は出るまでには至らなかったという答申でもいいんじゃないですかね。

この両方の問題は非常に難しいものだと思います。

（中村委員長）

これも何度も発言しておりますが、中学生を考えますと、ここで結論を出しておいたほうが、より良い高校教育を早期実現できる、より魅力を出せるんじゃないかという、そういうことでいずれにしても教育委員会さんが最終的には判断されることですが、推進委員会は多部制・単位制等の配置について依頼をされております。

ですからこれをどこかに決めないでくと、先ほどのように長野南、松代も同時に同じ立場だと思いますね。それからこれまで大変ご苦労していただいた旧第1、第2通学区で、かなり大変な作業をされて、地域の方向性も定めながらご議論いただいて決定してきたこと、そちらにも影響するのではないのでしょうか。

ここはやはり第一推進委員会として、全体としてのシステムを考えていく、総数の決定基準というのはそんなところには従わなくてもいいというお考えもあるでしょうが、私は最終的にはこれから高校教育を受ける中学生に対しての影響が長引いてしまう。そういうところはぜひ避けていかなければいけないと思います。いかがでしょうか。

（小山（壽）委員）

基本的に委員長さんが、先ほどまとめられたこと、それから今、お話になったことに基本的に賛成です。今まで、なかなか議論をしてきてはっきりと「こっち」というものは、なかなか決めかねていることは確かですが、もう少し議論をして、やはり推進委員会としてこちらがいいのではないかというような案を提示することは必要ではないかと思っております。

最終的に、その推進委員会の考え方を県全体を眺めわたして、どういう実施計画をつくるのかということは、またそれは県の教育委員会の仕事であって、われわれとすれば今まで議論してきた中で、よりこちらのほうがいいだろうと。できる限りそういう結論を、われわれの段階としては出すべきだと思います。

しかしそれが実際にそのとおりになるかどうかというのは、また別問題であろうと思っております。そういう意味では極力、そういう方向に進められるように、議論はしていったほうがいいのではないかなと感じております。

委員長さんの先ほどのまとめに私は賛成です。

（牧 委員）

今、小山（壽）先生からお話がありましたが、この推進委員会でまとめた事柄が、県教委に上がりまして、県教委でそれぞれまた検討されて実施計画を策定されるということですが、この出た学校や、推進委員会で方向づけができたものについて、その学校が変わる

ということはあるのですか。

推進委員会を通じて、ずっと流れの中でそういうスタイルで来ていますが、それが教育委員会の実際の実施の段階において、学校は変わるとことはあるんですか。私は変わらないと思っているのですが。変わることがあるのであれば...

(中村委員長)

「何と何が違う」ということですか。

(牧 委員)

今回たまたま多部制・単位制の学校が、例えばA高校だと決めますね。決めたことが、県に上がった段階、実施する段階において、学校がまた変わるということがあるのでしょうか。変わらないと私は思っているんですが。

(中村委員長)

県の教育委員会は再編整備候補案というのを出示されておまして、それはいいかげんに出したものではなくて、非常に重いものだと思いますが、それに対して推進委員会が別の結論をもし出したとしますと、そこに理由は当然書かないといけないわけですよ。そういう報告書になると思いますが、その理由のところを県の教育委員会が検討して、もし推進委員会のほうがより優位性があるとすれば変わってもよろしいんじゃないでしょうか。

われわれは地域の意見も聞いてきています。もちろん教育委員会さんもある程度、そういった情報を集めながら計画を立てたんだとは思いますが、かなり時間をかけてご意見を聞いたり、皆さん方にご議論いただいたことですから、こちら重い結論ですから両方判断される、その結果が変わることはあり得ると思います。

ですから初期のころは「たたき台」という言葉でした。最近は、候補案ですか。検討材料となっています。

(牧 委員)

県へ聞いていただけますか。

(中村委員長)

事務局、コメントをお願いします。

(篠原教育幹)

私たち事務局が、検討材料としてお示したものがございまして、それにたいしてここで各推進委員の皆さんに、じゅうぶんな、慎重な、かつ熱心なご議論をいただいているわけです。そうしたものを私たちは最大限尊重しながら実施計画を立てていくと。これは当然のことでございます。

(中村委員長)

牧委員よろしいでしょうか。

(牧 委員)

変わることがあるのかないのか、それだけお聞きしたい。

(柳澤教育主幹)

それぞれの推進委員会から上がってまいります報告、これを最終報告書にも書いてございますように、県教育委員会としてはそれらの報告を考慮して実施計画を策定しますと、なっております、具体的な、どこが変わる、どこが変わらないということは、いろんな形での報告が上がってまいりますので、今、ここではそれを考慮して実施計画につなげていくと、こういうことしか申し上げられませんが、それぞれ推進委員会からいろんな付帯事項もついたりとか、いろんな意見が入った形でのことが上がってくるだろうと思います。

それらを総合的に考慮させていただいて、教育委員会として責任を持って実施計画を策定しますと、こういうことでご理解いただきたいと思います。

(丸山委員)

今、議論になっているのはまとめ方といいますか、そのところだと思いますが、私も意見を言いたいのですが、私は市川さんがおっしゃったように、もう時間もないし、あと何回もやるなら別ですが、時間もないということもあって、今までやってきた中での現状を、そのまま報告するというのが一番いいと思います。

なぜかと言うと、実はこの高校改革プランをめぐる動きというのは、この推進委員会の議論が始まってから地域でものすごい動きになってきているわけですよ。そういうことがあるわけだから、ここで別に無理してどうしても1校に絞るということをしなくたって、例えばどんな案を出したとしても、県教委はさっき言ったように、「そのとおりにします」と言わないわけですし、かといって前の候補案にするのかっていうのも言えないでしょうし、結局いろんな意見を考えた上で、県教委は県教委の責任でそれはやるわけですよ。

そのときに地域のいろんな動きや、現場の動きや、反対の声、賛成の声とかあるわけです。そういうことでいったら、現状を、むしろ出た意見。あるいは例えば候補案に対しての問題点、課題、それからここで出た学校名に対する問題点、課題、それをそのままリアルに、こういう意見が出た、こういう問題点がある。しかしこういうことは必要だというようなことをまとめることで、じゅうぶん責任が果たせるのではないかなと思います。

確かに多部制・単位制を1校つくるということが責任だということになればそうですが、それは検討した結果こうだという、意見をまとめるということですからね。

実は中野地区でも、現場の立場でちょっと言わせてもらいますが、今まであまりそういう立場で言いませんでしたが、学校の中も正直大変です。そんなに簡単に、すんなり受けたわけじゃないです。いろんな思いがありますよ、教員の中にだって。自分の学校がなくなるんだから。

自分の学校がなくなるという、同窓会だけじゃなくて職員のつらい気持ちというのがあるわけです。それでも、一定の理屈が通るから仕方ないな。ならばそういうところに夢を持って、新しい学校をつくってみようというような方向にいつているから、今例えば正直言いますと、中野高校の先生たちは何人かみんな県外へ行って総合学科の研修をしているわけですよ。いいのをつくるのだったら、いいのをつくろうって。

そういう動きが、地域でなかなか出てこないというところへいったら、1校に絞るのではなくて、もっと地域で議論する時期も含めて検討したほうがいいので、ここでわざわざ1校と決めなくたって、多部制・単位制についてそれぞれ出てきた地域については、またこれから地域や現場で議論してもらえばいいと思います。

そういう点では、まとめ方は無理して1校に絞る。例えば2通学区のように。ほかのところを言っただけかもしれませんが、多数決でやるみたいなのに、しないほうがいいし、絞る必要はないんじゃないかと思います。もちろん、まだ何カ月も先やるんなら別ですけどね。そういうふうに思いますけどだめなんですかね。

(清水委員)

私も今発言しようと思ったことは、丸山さんのおっしゃったこととほぼ同じことだったので、再度手を挙げませんでした。理想とすれば、やはりこの推進委員会である程度方向づけ、「ある程度の方向づけ」という意味合いですが、できるならば校名1校、ここで出ればそれは理想だと思いますが、現状具体的に言うと屋代南あるいは坂城の問題、それと長野南と松代の問題。これはいつまで議論をしても、決定的な決め手というのが恐らく出ないんじゃないかなと思います。もちろん議論は議論として出ましようが、やはり皆さんが納得して、「うん、やはりここが一番いい」というようなことというのは、ちょっとあり得ないという気がしてならないわけです。

ですから同じことを言うようで恐縮ですが、この推進委員会である程度絞り込みができれば、それは理想ですが、できないものを一本化していくということは無理があると思います。

ただいまの県教委からのご説明にもありましたように、各推進委員会で出てくるまとめ方、それから方向性というものも、さまざまだと想定しておられると私は今感じました。

従ってきれいな形で一本化した案も出ましようが、どうしてもここはこういった意見が出たがまとめきれなかったというようなこともこれは当然あるわけで、ましてや今論じている2つの案件については、この推進委員会でここがいいといって出たところではなくて、前々回にも話がありましたように、牧さんからも話が確かあったと思いますが、多部制・単位制については利便性のいいところ、あるいは都市部というような意見が出てきましたが、実際具体的な名前が出てこないから、今挙がっているこの2校から絞っていきましようという流れになってきているわけです。

ですから、それがどうしても決め手がないということであるならば、そういった形のまとめ方で県教委にお預けして、県教委がご判断するという形のほうが自然だと思いますがいかがでしょうか。

(中村委員長)

今、清水委員の言われたことを議論してきて、2校でということに、私は判断してお願いしていくとことだと思いたいますが。

事務局、お願いします。

(柳澤教育主幹)

先ほどそれぞれの推進委員会のまとめ方がさまざまであるというお話を申し上げましたが、報告書が今それぞれの推進委員会においては骨子が出たり、あるいはもう既にまとめの審議をしている第四推進委員会のような推進委員会もございますが、冒頭に各推進委員会の審議の様子を報告させていただきましたが、第二推進委員会、第三、第四も、当初、お願いをしました検討依頼事項に沿って、推進委員会としての一定の方向、結論というものはそれぞれ3つの他の推進委員会とともに一応方向が出ております。

今、次回に結論を、といているのが残っておりますのが、第三推進委員会、南信地区でございますが、8区、9区はほぼ合意をされ、7区について次回冒頭結論を得ると、こういうことになっておりまして、それぞれの推進委員会とも、検討依頼事項に沿って、推進委員会としての考え方、校名というものはお出しいただけるという状況でございます。

(清水委員)

すみません。ちょっとよくわからないのですが、ということはあくまでもまとめ方というか、推進委員会から出てきた結論というものを、どの程度まで県側とすれば期待をされているのか。「こうじゃなきゃいけない」というものがあるんでしょうか。

つまり今のお話を聞けば、それぞれの推進委員会で具体的な校名を最終的には挙げて、1つにまとめたものをやっぱり期待されるということですか。

(中村委員長)

多部制・単位制の配置をすると決めたのですから、やはり校名が挙がるべきと私は思います。第1通学区全体として、システムとして魅力づくりを考える。総合学科高校、多部制・単位制高校は1校ずつ配置する。

その辺は多分異論はない。総論賛成、各論反対というのは、ちょっと無責任じゃないでしょうか。それであれば、もっと違う魅力づくりを考えて将来に向けた高校改革を構築してくるべきだったと思います。

(清水委員)

ちょっと考えさせてください。

(塚田委員)

私は、今、委員長が言われたことに賛成です。一番最初に戻っていただきたいと思いますが、われわれ依頼されたときの検討事項に、魅力ある高校づくりに関する事項、それから総数の決定に基づく再編整備に関する事項、それから総合学科高校および多部制・単位制高校の配置に関する事項、その他の事項ということで、この4項目についてわれわれは諮問されて、検討してくださいと言われたわけです。

それを皆さん受けて、議論を重ねてきたわけで、やはりわれわれとすれば結論は出さなければいけないと思います。そういう責任を負って、この委員会に出席をしてきたんではないかと思います。

ということでは、やはり一定の結論は出さなければいけないと思います。そういう責任

を負っていると思います。そういうことからいうと、今の屋代南、それから坂城についても、私はどちらかということは結論を下す責任があるのではないかと思います。

（小山（壽）委員）

私も今の塚田委員さんと全く同じ考え方ですが、これは最終的に議論をして、どうしてもだめだということになれば、また話は別ですが、今の段階でもう結論は出さない、事務局へ下駄を預けるというようなことはやっぱりすべきではない。極力、やはり結論を出すべきだと思います。

やり方についてさまざま批判もあるかもしれませんが、第二推進委員会でも、またそういうような思いの中で最終的にあのようなやり方を取ったのだらうと思っています。

結論を出さなければ、結局は原案へ戻っていくということだらうと思っています。つまり代替案がなければ、それは原案ですよ。検討材料としてお出ししたものです。あるいはこの推進委員会の中での議論を聞いて、検討材料として県が提示したものをどういう修正を加えたかというような説明をして、県が最終的に判断をされるということになるんじゃないか。

ならばできるだけ推進委員会としてはこう考えるというものを一本にまとめる、そういう努力はやっぱり最後までするべきではないかと思っています。

（中沢委員）

最後のまとめの論議に、どうするかということに走ったのですが、その前にもう一度、例えば両校が候補であると、あるいはまたほかに求めるという意見もあるのですが、ここで県から求められている課題、あるいはまた中学生がこれから将来を見通す場合に、できるだけ方向性は早く決めたほうがいいんじゃないかと、相対的には思います。

ただ今までの多部制・単位制の論議の中で、先ほどいただいた資料の26ページ以降に、再三にわたっていろいろ論議されているわけでございます。私もいくつか申し上げたわけでございます。ただ今までの中で、私が申し上げたことに対して、「いや、中沢の言っていることは違うんだよ、こうだよ」という論議は、一度もいただいていたなと、こんな思いがいたします。

そこでもう一度復習の意味で、私はこう思うということで申し上げますので、議論の中でそれは違うなら違う、それはそのとおりだよというような、具体的な面からの論議を求めてまいりたいと思っています。

先ほどもひとつ申し上げたのは、地域における普通高校というのは大事なことです。そういう中で、今までの全日制の普通高校というのは、自然の流れの中で適正配置されているんですよということでございます。

従って例えば坂城高校が他に転部すれば、そこだけが1つの全日制の普通高校がなくなり、空白地帯が出てしまうんですよということでございます。2つ目は、町にとっても地域にとっても学校は大事なものであって、今まで歴史的な面からも培ってきましたよ。とりわけ坂城高校の場合には、地域の皆さんが進学するそのものが40パーセントに及んでいるので、他にない数字だと、地域に根差した高校だと思っています。

そしてまた交通の利便性といいまして、これは考え方によっては、第1区ですから長

野を中心にとということの接点があるかと。しなの鉄道の沿線ということについては、両者同じですが、長野周辺を見ますと河東線もありますし、中央線もあるし、そして長野により多くの学生がいることを考えると、利便性、交通性ということもおのずから結論が出るんじゃないかと思います。

そしてまた学ぶ生徒そのものにとっても、今子どもたちはいろいろ多様なニーズを持っているわけですので、その町にはできるだけ都市機能があり、工業も農業も商業も歴史も文化も享受できる、そういう場であるべきではないかなと思っています。

そしてまた、その多部制・単位制ということの現在の高校がどこにあるかということ、篠ノ井、長野周辺に、そういう高校がございますので、それが再構築されるにはその地域のできるだけ近寄った場所、そのことが大事だなと思っているわけでございます。

いろいろございますが、そういう意味においては、また今のように地域性、交通の利便、あるいは都市機能、そして子どもらのニーズ等を勘案して、私は申し上げているので「いや、これは中沢の言っていることは違うよ、こういうことなんだよ」ということをお示しいただきながら論議を、より深めてほしいと思う次第でございます。

（森野副委員長）

ただいまのご意見に私も大賛成でございます。この際、決然たる改革の意欲を欠いては先に進まないと思います。ただいまのご意見も位置づけるとすれば、先ほど私は最初にお願ひしたのは定時制へ通う子どもたちの各学校、中学校の子ども数ということをお示し上げたわけございまして、先ほど資料6をちょうだいいたしました。ありがとうございました。

これによりますと、旧1通はなし。それから2通ですね、これが若干。それから第3通学区、要するに長野市。大都市でございます。これが60パーセントを占めているわけですよ。子どもたちが学ぶ場所、やはり市街地がいいな。そういう点でいきますと先ほどもお話がございました。しなの鉄道あるいは河東線、この延長線がよかろうということになってまいります。

それから旧第4通では、20パーセント程度ですね。このように子どもの絶対数からみても、できるだけ市街地に近いところがいいな。学ぶ者は生徒なんです。この子たちの利便性を考えていただきたいと思います。後づけをさせていただきました。

（青木委員）

ここ1、2回の会議は、大変地域のことを考えると胸が痛んで発言をしづらくしていたことが、私の偽らざる心境であります。

やはり地域においていい高校をつくろうとする限りは、委員長さんはそうでないというお考えでしたが、私はやはり地域全体でその学校はどうあるべきかということを考える機運が地域の中に巻き起こってこなければ、これは違うのではないかと、ずっと思っている1人です。

といいながら、残念ながら坂城地域でも屋代南地域でも、「わが地域に多部制・単位制」という声が上がらず、現状の高校としての存続を願う声が圧倒的なわけであります。両地域としてみれば、どうしても多部制・単位制がある意味では、私はある程度これからの高

校のひとつの姿として魅力ある特殊な高校としての位置づけは、認めていきたいのですが、両地域にとってみれば、ある意味では「迷惑な高校」という位置づけで取っていらっしゃるのかなと思います。

それもある意味では、無理からぬこととされているわけではありますが、いずれにしましても、ちょっと今の状況では方向性が定まっていけない。でも、市川委員さんがおっしゃったように、また第二推進委員会でもやったように野沢南の件を最終的に委員の多数決によって判断をするというやり方は、私も賛成はできません。

しかしどうしても委員長さんが県教委から投げられたプランに対するこの推進委員会としての方向を責任をもってしなければいけないということもわかります。そうであるだけに、本当に私は発言がしづらかったのです。

方法論として提案ですが、やはりこれはもう1回月末までに、1月以内に3回目の推進委員会を開いていただきたい。そして、その前の段階までに委員長さんが全委員の意見を今もう聞いて、頭の中で整理していただくわけですから、今までの飯山地域、また中野地域も、皆さんの意見を聞いて委員長さんは、このような方向にしていこうべきだと思うという言葉で表現してきたわけですから、ぜひとも次回の会合の前までにこの問題、この地域の問題を整理していただきたいと思います。

要は、どちらにするかという多数決はだめですが、委員長さんがまとめてくださったプランに、それに賛成できる。また賛成しかねるということの意思表示の、委員長さんに諮ることは、ちょっと意味合いが違ってくる。非常に、ちょっとずるい方法論ではありますが、そのようにしてもらわなければ、ちょっとまとめきれないなと思います。

そのようなことをしてくだされば、私の手を挙げるか下げるかの判断ができるような気がいたします。

（中村委員長）

青木委員の最初の部分の発言は否定して、最後はそのとおりに致したいと思いますが、最初は地域が納得しなくても進めていっていいと私は、発言はそうとらえられたかもしれませんが、そうではなくて、まだ話し合う機会はあるんですよね。実行計画が示されて、「こういうふうやっていくんだよ」という、相当具体的なものが示された段階で、地域の皆さんと検討していくんだと思うのです。

今は、多部制・単位制の配置をどこかに、利便性、それから子どもたちが通える点、それから魅力が増す点を考えて配置する、その候補の学校名は、具体的に検討しなければ理由が立ちませんから、その理由を考えて決めるというところが、1ステップだと思います。

それから、県教委に言われて、責任があるので一本に絞らないといけない、これも否定いたします。議論は、そういうことではなくて、皆さんの意見を聞きながら、方向性が定まったところを決断するのであって、多数決も私は最初から否定していることです。

それから第二推進委員会は、その直前に非公開でやられました。かなりの校名が挙がったと聞いております。それが逐一委員長さんがその後の会議で報告されていますから、どなたの発言かというようなことはおっしゃらずに報告されていると聞きましたので、非公開の影響はそれほどなかったのかなとは思いますが、最終的にはその次の私が傍聴した、つい先日8日か9日ですね。前回の第二推進委員会の会議では、その非公開で挙げたとき

の名前が、公開しているにもかかわらず、ポンポンと出てきたということがあります。

ですから理由がしっかりと決められて、理由を論理的に考えてここの高校がいいということが皆さんお考えになれば、公開だろうが非公開だろうが、正しい選択をしていただけるのだと思いますので、県教委に言われたから１本に絞るのではなく、皆さん方の議論がそちらの方向に向かっていけば、そのように決めていく。私の意見のそこには当然入りますが、そのように決めていくということです。

それとあと、非常に重い責任で文章を考えろということですね。そこは致し方なくやるということで、了解いただきたいと思います。そのために、今日まだ途中です。議事録がまだですので、皆さんにお示しするにはちょっとした言葉の違いでも、だいぶ内容が変わってしまうところがありますので、途中までしかまとめてありませんが、ほとんどすべての議論をまとめさせていただきました。

まず推進委員会、10回か11回ぐらいからはここに入っていません。ですがこれをお読みいただければ、おのずと方向性が出ていく順番に並べてあります。恣意的にやったと言われれば仕方がありませんが、議事録のそのままの内容を並べただけですから、それほど加工はしていないつもりですので、これが推進委員会としての方向性を定めた内容だと思いますので、これをある程度一読してわかる文章にまとめたいと思います。

ですので、私の考えはそれほど比重は高くない。皆さん方が議論した内容であると思います。誰々が決めたとか、誰かが発言したという結論ではなくて、推進委員会が一定の方向を示すというところは、責任をもって行いたいと思います。

進め方は、青木委員、このような解釈でよろしいですか。

（小山（元）委員）

最初から、やはり我々の会というのは、少子化がもうこれは目の前に迫ってきているわけです。それを踏まえてやはりこの推進委員会というのは検討してきているわけございまして、今までの旧第1通学区、第2通学区、飯山地方、それから中野地方も、それを真摯に受け止めながら各地域に、それぞれの結論を出していきながら、先の見通しで検討してきたんですね。

そういうところで発表を、この会でやってきたわけですが、やはりそれぞれの地域に建っている大事な高等学校ですから、候補案に上がりますと、それはそれなりの思いというのは、皆さん地域でも思っていると思います。

しかしこのままでは、ずっといくというわけにはいかなのが、われわれの推進委員会に任されたひとつのことでありまして、私としましても地域代表ということになりますと、地域へそれぞれみんな背負っておりますので、なかなか言いにくいところもありますし、この地域を大事にしないと、という立場もございます。

しかしそれぞれの思いはありますが、それぞれの地域のこれからを考えた場合に、何が一番大事なんだろうかと。やはりそういうことも考えていく必要があるんじゃないかと思えます。

今の多部制・単位制の問題につきましても、私が行ったのは太田市でございます。やはりああいうひとつに新しい方向も、今後大事に取り入れることが長野県としても大事じゃないかなというとは、じゅうぶん認識したわけです。

いろいろ議論はございますが、やはり第一推進委員会で多部制・単位制は今後必要なんだという方向を、いずれにつけみんなで確認した立場ですから、やはりこの方向で、このところでは今後大事に検討して、また地域にご理解していただくんだという、そういう方向で、やっぱりある一定の方向づけだけはするべきではないかと考えているわけです。

やはり、拳がってきております 2 つの高校の名前のところで、1 つの方向性だけはやっぱり示すのは大事じゃないかという立場です。

（中村委員長）

ほかにご意見ありますでしょうか。

（市川委員）

私も何回か欠席して申し訳ありませんでしたが、その中で出たかどうかわからなかったのですが、先ほどもお話が出ました被服科の方向性というのは、もう決まっているのですか。

（中村委員長）

地域のご提案は、また別の名前ですが、基本的には伝統を引き継いで。皆さん方のところにも要望書がいていると思うのですが、こういう学校にしていきたいというのはいただいております。

（市川委員）

その中には結論はございますか。

（中村委員長）

それを、課題等で挙げていただきたいとずっと申し上げていますが、今、教室使用の面ということで宮本委員から課題提起をいただいておりますが、それは検討していくべきだと思います。事務局で、お答えいただければと思います。

（篠原教育幹）

総合学科にしましても、多部制・単位制の高校にしましても、これは当然ながらその学校がこれまで持ってきた特色、それを科目として設定していくと。これは単位制ですので、科目としてどのような科目の群をそこに設定するかということがひとつあります。

それからもうひとつは、私どもとすればこの再編整備というものの、実施計画を策定していく際に、当然ながら学科の再編ということも考慮していかなければいけない。つまりこれまである学校に、ある学科があった場合に、その隣の学校が例えば多部制に変わったと。そうすると、今まで持っていた、その学科をもっていた今回の対象にならなかった高等学校、これについてもやはり魅力を出すために、どのような学科構成がいいのかということも同時に考えていかなければいけない。

つまりこれは、再編整備の検討を始めるときから申し上げているとおり、これは単に名前の拳がった高校のみではありません。そうではなくて、それによってさまざま周辺の高

校も影響を受ける。そういった影響を受ける高校までも含めた、やはりそういう魅力づくり、このために学科の再編ということも、もちろん考慮しなければいけないそういう学校も出てくると認識しております。

従いまして、ある学科がなくなってしまうという発想には立っていないということであります。

（中村委員長）

「屋代南高校の将来を考える会」からは、第11回のときに、これは地域からの意見、団体からのご意見をお聞きするという機会でしたが、そのときにこういうご提案をいただいています。

屋代南高のライフデザイン科を、普通科を併設するという特長をさらに生かし、モデル校となるように、この再編整備候補案、県教委では実業高校については述べられておりませんが、ぜひ新たなご提案としてここにご提案申し上げたく存じます、というご発言をいただいていますので、被服科をライフデザイン科と改称するのか、内容を引き継ぐのかちょっとわかりませんが、そのようなことをご提案されています。

これは高校の将来を考える会のご意見ですので、こういうものも参考に、あるいは取り入れるという付帯事項でもよろしいのかもしれませんが、そのようにやっていくのではないのでしょうか。

（丸山委員）

屋代南のライフデザイン科の問題、今、現場から提案されている問題との関係でいうと、ライフデザイン科、いわゆる昔流でいったら家庭科。そういう家庭科専門の学科がなくなるわけですよ。それで県教委からの説明では、それは多部制でも生かせると言いましたが、それは全然違いますよ。科目は入れられますが、それは無理でしょう。

いわゆる現場で提案されているような、それをモデル校として、家庭科、被服科、ライフデザイン科のモデル校として、北信に1校しかないそれも。皐月も総合学科になりますね。総合学科だったら無理ですよ。私は前から言っているように、総合学科というか、中野実業の工業科はなくなるよって言ったら、皆さんそれでいいと言ったから、私はそれで、もう言いませんでしたが。

つまり総合学科や多部制・単位制に換わるということは、その専門学科の、それを本当に徹底的にやろうという、そのモデル校的なものをするということは、それは無理です、意味が違いますから。

ということになれば、県教委がさっき言った説明だと、例えばですよ。もし屋代南が多部制・単位制に換わったら、どこかに被服科なりライフデザイン科、家庭科を持っていく、どこかにくっつけるということになるわけですね。そういうことにならなければ、全くななくなってしまうことになるわけですよ。工業科については、長野工業があるからいいじゃないかという話があったから別ですが。

だから、その職業科の問題の配置とも関係はしてくるんですよ。そういう点でいくと、もうひとつ言いますが、屋代南か坂城という問題は、私は基本的な考え方はこの前言ったとおりですが、それは少数意見でしたから言いませんが、ただもっと率直に言わせてもら

えば、私は根本的に多部制・単位制についての意見を前に言ってあることを持っていますので、どうしても校名は私の中では考えられないんですよ。無責任だと言われれば、それまでかもしれませんが。

だったらそうじゃなくて、多部制・単位制をちゃんと独立でつくるべきだと考えていらっしゃる、申し訳ありません、ちょっと挑発的で申し訳ないけど、委員の皆さんの中でね。挙がらなかったというのはどういうことなんですか。それは屋代南が一番最適であるということなんですか、違うんじゃないですか。例えばはっきり言いますけど、篠ノ井地区や長野地区で何で名前が挙がらないのか、須坂地区で何で名前が挙がらないのか。

同じ、学校を転換するということでは一緒ですよ。そういう意味があるので、ここまできたら議論がきたら、それは2校しか挙がっていないので、議論をさんざんしたけど2校の中でということはわかりますが、そういうことも背景には、今までの議論の中ではあったと思うんですよ。

そういう中で、流れで2校になってきたということなんで、私がさっきから言っているように、どちらかといえばどっちだという話はできますが、それがほんとうに正しい、全体を見た形になるんでしょうかね。そういう点でいけば、私たちの委員会の責任としては、多部制・単位制についてはこういうふう考えているけれども、現実の議論ではこうだと。2校について挙がったと。それについては、それぞれこういう課題があるということをもとめれば、それでこの議論の責任は果たせると思いますが。

委員長さんの判断で、一定方向にまとめるということでしたら、それはそれで私は、例えば個人的に少数意見に反対だとしても、それはしょうがない。そういう方向が決まったら、それはしょうがないですが、私の意見はこういうことです。

(中村委員長)

別の観点で、1校に絞るということに関して異議のある方はいらっしゃいますでしょうか。別の観点というのは、今まで出ていない項目でということになります。

そうすると、一定の方向を示していく。それで、最終的に1校の名前を挙げるという方向が強いと思いますがいかがでしょうか。それは屋代南、坂城、この多部制・単位制の配置に限ったことではなくて、ほかにも言えることです。

戻ってしまいますが、例えば中野地区を考えたときに、完全にもろ手を挙げて全員が統合していくことに賛成されたわけではないですが、ある程度の方向性は得られている。ここで屋代南、坂城、どちらかに決めない。両論併記のような形、あるいはペンディングのような形で報告するとなれば、ほかの地域も同じ立場に立つと考えますが。

われわれ第一推進委員会のこの地区内で、すべて関連して議論をしてきているわけですので、ある地区だけ許して、ある地区はそうではないというのは、議論が難しいという点もあるかと思いますが、ご意見がなければ課題を挙げていただきたい。

1つ先ほど、宮本委員から校舎利用のことについてでしたか、転換した場合には使い勝手が悪いのではないかとということが挙りました。これは以前事務局がお答えいただいていると思いますが、そういう課題が挙がっていますが、再度、事務局でお願いしたいと思います。

多部制・単位制になると、多分教室数がかなり増えるということですよ。それから新

たに生徒たちが集まる部屋といえますか、例えば就職、リクルートや。今はキャリアですかね、キャリアの部屋。あるいは授業がないときに、そこで自習をしたり、あるいは交流を図る部屋、あるいは食堂ということになるのでしょうか。

（柳澤教育主幹）

教室の保有状況を見てみますと、屋代南高校、坂城高校ともにほぼ同じような教室の規模を持っておりまして、屋代南高校が総計、特別教室等も含めて 33、坂城が 36 と、ほぼ教室数からいくと同じような規模になっております。今、委員長さんからお話がございましたように、多部制・単位制をつくっていく際に必要な、今言った学習室ですとか、相談室ですとか、さまざまな形で改修も必要な部分も出てくるかと思っておりますが、いずれにしても多部制・単位制をどういう中身でつくっていくかに応じながら、必要な設備等については、充実を図ってまいりたいと考えております。

（中村委員長）

どちらの高校に対しても、多分そういう、もし校名を挙げた場合には具体的に設備等、充実を図ることが必要であるということが条件に入っていくと思います。

（宮本委員）

先ほど委員長さんから話された内容ですが、どちらかの高校にある程度私個人としては方向性を持ちながら、できるだけ議論を尽くして委員会としての責任ある結論を出していくということは前提なのですが、その結論についてはどういう結論になるか私はちょっとわからないのです。

今、委員長さんが話していました不公平にならない決定の仕方ということで具体的に言いますと、ではすべての地区に対してどちらか一方ということに決めていきたいという、委員長さんの考えでしょうか。

例えばですが、松代と長野南高校の問題が、まだ残されています。それについても一定の結論、どちらかというような結論を出してくる。あるいは今出ています多部制・単位制についても、どちらか、中野、それと飯山についても時間的に延ばすのではという話がありますが、生徒の今後を考えてある程度の、そういうことも考えないで出していくということでしょうか。

（中村委員長）

付帯事項はいくらでも増えると思いますが、それを挙げるにはやはり具体的にどうなのかということで 1 校に絞る必要があると考えています。

（宮本委員）

長野南と松代の問題についても、時間をかけないで 1 校に絞るということで。

(中村委員長)

時間をかけろ、ある一定期間を待ってから、基本的にはどちらかに統合する方向である期間を待ってからというようなことが、前々回でしたか、ご発言があったように思いますが、それも1校に絞るということになると思います。

(丸山委員)

長野南と松代については、ちょっといろいろな意見があるので、それはごっちゃにしないでください。この間の意見では、委員長さんが言ったようにそういう意見が出て、それで継続になったわけですね。

どっちかに絞るということに決めたわけじゃないような気がするんです。今、だから多部制・単位制のことでやってもらって…。

(中村委員長)

絞る方向で議事進行をしてきたのですが、また異論があれば、そこでご発言いただきたいと思います。基本的には、私のスタンスはそのように1校に絞っていく方向で、公平に。公平にというか、不公平というのはどういうことなのかわかりませんが、議論していきたいと思います。

ここで休憩したいと思います。

【休憩後再開】

(中村委員長)

それでは時間になりましたので、再開いたします。

引き続きご議論をいただきたいのですが、同じご発言ばかりが続いております。何か別の観点、あるいは違うご意見あるいは、議事進行についてご意見があればお願いします。

強いていえば、冒頭でご指摘いただいたように、長野南、松代との関係もあるということです。坂城と屋代南に関しては最終的にどちらかに絞ってまとめていくということを前提にして、いったんここで議論を止めておいて、もうじゅうぶんど議論いただいたと思います。また繰り返しの発言ばかりになってきましたので、その対処としまして、いったんここで止めて、先ほど青木委員からのご提案のとおり、またもう一度チャンスもあるかと思います。

この報告書の内容に触れたかったのですが、最終的にやるとすればもう一度決定するチャンスがあると思いますので、そこでお決めいただくということで、長野南と松代の議論に移ってよろしいでしょうか。それとも関連するので、どちらかと決めなければ、やはりお互いに決められないというジレンマに陥ると思いますが。

(若麻績委員)

やっぱりこの多部制・単位制の議論については、かなり難しくいておりますし、理解も相当深まっていることは事実だと思います。

結論を急ぐということではなくて、やはり出ているテーマに対して、もう少し明確な議

論をするということは、私は必要なと思っております、先ほど中沢委員さんからも坂城の学校の存続優位性ということを問われましたが、県教委さんから出ているこの案に対しての、まだビジョンとの比較というんでしょうか、そういったものに対しては、1つ1つのことはされていないと思うんですね。

先ほど校地校舎の、6学級をつくるという前提で進めている中での校地校舎は、両方ともオーケーだと、可能だという話がありました。それから、どちらが何に対してどう優位なのか。まして、どちらがウィークポイントがあるのかということは、もう少し議論を深めていく、その先に何か見えるものがあれば理解はもっと深まるのではないかという気がしております。

例えばのお話をしますと、先ほど第二で野沢南に一応仮決定したという話がございましたので、やはり上田地域の定時制の生徒さんたちの受け入れというものを考えなければいけないという中で、県教委さんの案では坂城さんの名前が出ている。そして、上田から10分です。しかし長野からは今度30分かかる。

逆に今度は屋代南にした場合は、その反対になって上田からは20分と、長野からも20分というような交通の利便性を考えるとそのようになります。またもうひとつの観点では、産業と教育というものが密着に連携すべきだと思いますので、坂城の場合はテクノとの非常に密接な関係が築かれる。そうすると屋代南では被服ですが、先ほどの議論からすると、ちょっと見えない部分もありますが、それがテーマになるであろうとは思われます。

そういった面で、1つ1つ何か優位と思われるものはどちらなのかということは、理解を深めるべきだと思います。

(中村委員長)

ありがとうございました。ほかにございますでしょうか。

(清水委員)

県から示された坂城高校を多部制・単位制の根拠、それなりの裏付けというものは、この資料に書かれていて何度も読み返させていただいてはいるのですが、私だけかもしれませんが、どうも同じ土俵の上で、今、若麻績さんのおっしゃったことに関連してくるのかもしれませんが、比較もしようがないというのが、私が感じているところです。

途中から屋代南の校名が出て以来、そういったところはまだ論じられてないのではないかなという気がしているんです。同じ土俵の中で同じ資料というか、比較のものがどうしても不足しているんじゃないかなと思います。

たまたまここには、坂城高校に関しては、もう中沢さんが熟知されておりますので、いろんなご発言もされているし、それなりに本当に納得のいく部分も当然ありますが、片や屋代南さんのほうの情報、資料などそういったものがそれに対して不足しているのではないかなという気がしているのですが、そういったものを何か県でお示しいただければありがたいと思っているのですがいかがでしょうか。

(中村委員長)

数値的な根拠は、第16回のときに屋代南高校の状況ということで、出身中学と、それから地理的な状況、同じ表の形式で坂城高校との対比がわかるようにまとめていただいて、委員会で配布されております。

このほかの数値的な比較は、あるいは地域と連携していく上での比較は、中沢委員が再三にわたってご説明いただいて、屋代南と坂城と比較ということで、同じ土俵だと思いますが、ご発言されているのは関係者ということでしょうか、委員さんの立場は全体を考えてのご発言だと思いますので、同じ土俵の数値と思いますが、ほかにどんな内容が必要でしょうか。

(清水委員)

確かに資料的なもの、数値的なもの、そういったものについてはわかりますが、やはり例えば中沢委員さんがおっしゃっているような、ここには全日制普通科がどうしても必要なんだというような生の声というのが、ないわけです。決して坂城高校が優位点ということではないですが、たまたまこの場でそういった発言の場は屋代南に関しては与えられてないわけですね。

そういった意味合いにおいて、感覚的に数値的に見えても、なかなか優位性とか、こういったことで便利なんだとかいったものが、どうも実感としてわいてこないというのが、ひとつ私の中にありまして、どちらかに決めづらいなと思っています。

(中村委員長)

皆さんはいかがでしょうか。

(宮本委員)

一応坂城高校が出たというのは、県立高校再編整備候補案として出たということで、先ほども話しましたが、教育委員会が出されたものには、このような文書で載っています。

「第1通学区の多部制・単位制の候補として、坂城高校の全日制を転換することが挙げられる。坂城高校は交通の利便性から通学圏域が広く、地域からの支援や産業との連携による体験的な教育を展開でき、多様な学習歴、生活歴を持つ生徒の向学心を育成することが期待できる」、あと「長野西高校の通信課程を多部制・単位制の坂城高校に移し、多部制・単位制との連携による柔軟な単位取得や合同の」とあって、「東北信の通信制課程の中心校として坂城高校を考えていくことができる」という、この1枚の候補案の文章ですが、多分この中身についてはいろいろ検討されて教育委員会としては出したという発言がありましたし、多分かなり重く総合的に考えて、いろいろ考えて、もちろん学校、地域とか校長先生とか、そういうことを考えて出したと思うのです。

そうかといって、坂城高校がいいというわけでもありませんが、屋代南高校についてはそういう文章として、私たちの知る以外のところでなかなか見えにくいところがありまして、もしかしたら学校としてもどのように考えているのかとか、今出ている意見は利便性だとか、完全にみんなが見えていることについて近いんじゃないかなとか、そんなところでしか挙げられなくて、あるいは知らない事実もあったりとか、中沢委員から出ているよ

うに地域に密着しているところからわかるというようなこともあったりして、その他の意見として、材料として、どうしてもこっちのほうがいいというような、もちろんほかの地区の争点についても同じだと思いますが、責任はもちろんあるのですけれども、なかなかこういうものがないと判断がつきにくいです。

私もいろいろ探してきて、先ほども言いましたが、教室の数や、何かこういうことはないかとか、こういうことはどうなっているか。多分屋代南高校を、再編整備候補案として教育委員会がもし載せたならば、多分そのことについても触れたと思うのです。「こうだから」という文章を作って、ライフデザイン科はどこかへ統合するとか、あるいは教室の数だとか、敷地だとか、そういうことについてもありましたが、やはりその次に出てきたものですから、なかなか材料としてこれだということを言いにくいというのが正直な話であって難しいなと思います。

私自身もいろいろ調べてきて、いろいろ出しているのですが、それに対し教育委員会としては、大丈夫ですと言われればそうかもしれませんが、問題はないとは思わないのです。

（清水委員）

今、市川さん、それから宮本さんからおっしゃられたとおりだと、私も思っているのです。

つまりは、判断材料に乏しいと。話を蒸し返すようですが、確かに丸山さんが前からおっしゃっているように、この2校でいいかどうかということもありますが、それを取っ払って、この今出ている校名が2校しかない以上は、この2校で決めざるを得ないということに立った上で、比較するその判断材料あるいは、先ほど私が申しました「決め手」というようなものについては、非常に乏しいんじゃないかなと思っております。

ですから、もっと利便性とかそういった目に見えているもの以外に、実態がどうなのか。逆に、こういう理由だから屋代南ではだめなんだというような意見等があれば、非常に議論もしやすいのではないかなと感じているのですが。

（中村委員長）

また、中沢委員から再三という言葉でご発言があると思いますが、中沢委員からのご発言に対してのご意見は今のところないと思いますが、違いますか。

それ以上の判断材料をお求めになっているのであれば、その判断材料の項目をお示しいただかないと比較のしようがないと思います。

課題に関しては挙げていただいて、それは心配ない。屋代南と坂城の教室利用の面は、どちらでも大丈夫そうだと。ただ、宮本委員の感覚では使い勝手が、まだ課題があるのではないかというご発言でしたが。

挙げられていることに対しては判断せずに、何か判断材料がないのでほかに示せというのもちよっとわがまますぎるという気がします。申し訳ありません。特定のご発言を否定しているわけではなくて、議事進行に対して責任があるので、前に進めるようにしたいという趣旨の発言です。

これまでの判断材料として数値的なデータ、それから中沢委員はすべてを、両方を比較して優位性があるという発言ですね。あるいは対等であるというご発言だと思いますが、

それは委員の皆さんからは否定はないということはお認めいただいているということであると思うのですが。

それから 16 回のときに示していただいた数値のデータは、もう数値ですから、解釈もいろいろあるというご意見もあるかもしれませんが、この項目の比較については数字的には優位性は示されていると私は判断できると思います。あとは総合的な判断だと思います。課題がない。課題は、ご発言がないと思いますが。

清水委員のご発言は、関係者のご意見を直接聞いてないからということでしょうか。坂城高校に関しては、中沢委員がいらっしゃるので盛んに発言されている。でもそれは理由がなければ逆に、委員の皆さんには否定的にとらえられてしまうこともあります。理由が確かであるから皆さん納得いただいて、批判がないのだと思いますが。

それから地域の皆さんからのご提案も 11 回のときに受けていますので、そのときに質疑をしています。それに対しては、どうお考えになりますでしょうか。さらに判断材料をとということであれば、具体的にこういう項目はどうかというものがなければ、判断のしようがないですね。

（清水委員）

中沢さんが、常々おっしゃっていることについての異論はございません。要するに、はっきり言ってしまえば私はわかりませんので、そういった中沢さんのご意見をお聞きすると「なるほど、そうなんだな」ということで、素直に胸に落ちるお話ばかりですが、確かに屋代南さんのほうのお話もこれまでお聞きしましたが、ひとつの観点にのっとって、それに対しての坂城と屋代南の双方の意見というもので、対比したわけではないので、そこら辺が私とすれば、非常にわがままといえればわがままですが、判断しづらいなと個人的には思っているわけです。

もっと過激なことを言わせていただければ、やはりこの場で坂城高校に関する情報というものが、直接中沢さんから出ているということで、坂城高校のことについては非常によくわかりますが、いまいちそれに対する屋代南はどうかといったものの判断材料が私の中にはないなと考えているということで発言をさせていただいたのです。

（牧 委員）

前回いただいた資料の中に、屋代南高校の状況ということで、平成 16 年末の進学状況が、屋代中学、埴生中学、更埴西中学ですか。戸倉上山田中学の生徒さんの、屋代南高校に入学したパーセントが載っているのですが、屋代中学は 5.4、埴生中学は 8.9、更埴西中学は 9.4、戸倉上山田中学は 8.5 ということで、数字的にはそのほかの第 4 区の高校に行っているパーセンテージが非常に大きいですね。

屋代中学は 76、ほかの 4 区の高校ですよね。埴生が 55 ですか。更埴西が 66、戸倉上山田が 50。それで今日の生徒数の関係を見ますと、1 学年が 197、2 学年が 182、3 学年が 109、計 488 ですが、これ 2 年生が 182 で 3 年が 109 ですから、2 年生が少なく 1 年生が 197 と多いのはどういう数字ですか。生徒数が随分違うと思いますが。

(中村委員長)

事務局、ご説明お願いいたします。

(三澤教育支援主事)

はい。屋代南高校についてですが、1年生、2年生、3年生とも募集の段階は200名の募集でございます。そこに書いてあるように普通科4学級、被服科1学級として募集しております。1年生については197人、2年182、3年109人と、だんだん学年が進行するごとに減っているということですが、3年生の109人のところですが、これは200名の募集を致しておりますが、実際に志願され入学しているのは171名でございます。

それだけ欠員があったということですが、そこからさらに1年生から2年生になり、3年生になるという段階で中途退学あるいは他校への転校、それと原級留置というようなことがあります。109人というのが現在の3年の在籍数となっております。2年生につきましても、同様な傾向が1年から2年に上がる時にございます。

以上です。

(牧 委員)

予定の人数に達していないということですか。

(三澤教育支援主事)

はい。今、現在の3年生につきましては、まだ前期選抜、後期選抜が行われる前の入試の体制のときでございましたが、そのときは200名の募集に対しまして志願者が達していないということでした。

(塚田委員)

もう一度確認したいのですが、3年生が109名ですが、入学時は171名いて3年に上がるまでに転校なり中退で109名に減っているということですか。

(三澤教育支援主事)

はい、そうです。

(宮本委員)

もう一度確認しますが、この数字で判断するわけでもないのですが、先ほどの発言で、70名近くが進路変更をしたということですか。

(三澤教育支援主事)

ちょっと内訳があまり明確ではございませんが、全員が進路変更ということではなくて、10人ぐらいが原級留置でございます。それと転校もございまして、中途退学をしているという生徒もあと残りございます。

(宮本委員)

坂城高校の場合の数字は出たと思いますが、その数字はありますか。

(中村委員長)

同じ形式で作っていただいたと思いますが候補案 9 ページですか。

(三澤教育支援主事)

読み上げます。坂城高校につきましては 1 年生 161 人、2 年 150 人、3 年 119 人、合計 430 人です。

(宮本委員)

3 年のときの、その募集定員は何人入学していますか。

(三澤教育支援主事)

坂城も同様に 160 人の募集でございます。

坂城高校は 160 で、屋代南高校は 200 人ということです。

(中沢委員)

現状においての学校の定数そのものというのは、その時々によって、いろんな事情があるわけでございます。学校の設置というのは、もっと大きな中で地域にとって、あるいは広域的にとってもどうか、あるいは例えば同じことの繰り返しのようになりませんが、ここでみんなで確認しあっていることは、ここの第 1 区の生徒さんたちがより通いやすい場所であるべきだということだと思えます。

それにはできるだけ長野に近いことで、ということがみんなでいろいろ話し合われたのがひとつの原点の中にもあるかなと思います。そしてまた子どもたちにもいろいろなニーズがあるが、多様なニーズに対応できるということも大事だということ等も入っているわけです。

そしてまたさらに、1 区と 2 区というのでは、これからの多部制・単位制の中で県の教育委員会はいろいろ提案しておりますが、現状において坂城高校の場合には 4 分の 1 が上田地域から来て、そしてまたその産業のつながりにも貢献しているということで、その面についてはなくてはならない高校だなど、こんな自負もあるわけです。

ただ単に私の思いではなくて、私が言っていることは皆さんと 5 回、6 回話し合っている中で原点はこうじゃないかということのひとつの積み重ねで比較検討して申し上げているものでございますので、単なる私の意見というよりは、皆さんと、いろいろな要素でどうだということをお話ししているということだけは理解してほしいと思っております。

当初私が申し上げたのは、本当に多部制・単位制だったら長野や須坂、千曲市にあるべきで、これが原点じゃないかということから提案していることでございますし、また第 1 回に開かれたときに県の教育委員会が提示したそのものは、こちらのほうでこれから会議を開く前に、そういうことは提示することはいけないじゃないかということから始まり、しかしながら実際の具体的な話し合いということになれば、それも受け止めながらなおか

つ、その推進委員会でいろんな案を出しながら組み立てていこうということでございますので、県が最初に提案したとか、その後いろいろな提案されたということは、それぞれ同じ土俵の中で論ずるべきことであって、県が言ったからまず県のそれをということではなくて、それぞれの委員さんが言ったことは、その場その場で貴重な意見と対等に受け止めていってほしいと思っております。

それと、いろいろこれからのまとめの方法でございますが、私から言うのも差し出がましいようですがいろいろ言うべきこともご遠慮の雰囲気強いなと思います。先ほど中野の市長さんが、時によっては委員長さんに、大変ご苦労けれども、今までの何回の積み重ねの論議の中で、こんなことがひとつの考え方としてどうだろうかということへの、ひとつのまとめがほしいというようなお話もあったわけですが、それもひとつの方向かなと思います。

これから先ほど松代と長野南の話と出ましたが、そういったもろもろの話も、そういった手法もみんなでもお願いしながらやっていかないと、いつまで立っても同じ土俵で同じご意見が繰り返されるだけになってしまいやしないかなと、こんな思いを致しております。

（中村委員長）

回数が限られていますので、致し方ないと思います。お二人から委員長の判断で、文章を書けということだと思いますが、報告書の案を皆さんにお示しするという方向でよろしいでしょうか。

それで私の立場は先ほどから申し上げているとおりですので、2校から選択をして、その選択の基準は皆さん方のご発言です。感情的なものとか、そういうものは一切入れませんので、ご提案申し上げますから、またそこにご意見をいただきたいと思います。

それは回数がもう限られておりますので、これは準非公開になってしまいますが、あらかじめ文章をお配りして、それに対してご意見をいただいて、最終回で再確認いただくという形を取りたいと思います。

ご異論のある方、今、発言をお願いします。よろしいでしょうか。

（宮本委員）

まとめ方について、準非公開という感じになってと、今、委員長さんが言われたのですが、例えば何かこの表現について意見があった場合には委員長さんに出すということでもよろしいのでしょうか。

（中村委員長）

そうです。できるだけ、その時間が取れるように早急に文章をお配りするということです。

「意見」というのは、日本語が間違っているとか、そういうものは当然ですが、「推進委員会の議論の中ではそうではなかった」というご意見をお願いしたいと思います。新たなことを、私の文章に対して付け加えられてもこれは困りますので。わかりますか。

そのために、今までの議事録から抜粋をしてお配りします。それを付けて、すべての発言を付けてお配りしますので、その上でまとめた内容です。ですから新たな観点で、私の

文章に対して意見を言われるのはちょっと困ります。

そういうことでよろしいでしょうか。

次に進めなければいけないですね。第4区で、まだ課題がありますので、そちらに移ってよろしいでしょうか。

はい、それでは前回の続き。前回というのは、前々回になるのでしょうか。第16回の最後のところで、長野南高校と松代の統合のことについて、こういうことだったと思います。長野南と松代の統合をもとに、あるいは基準にして様子を見ていく。ただし統合する時期は、いつごろか決めるというのが、最終的なご意見として出ていました。

もちろんこのようにしていくと決まったわけではなくて、そういうご意見で終わっていたと思います。この続きで、ご議論いただきたいと思います。またどう進めるのかというご議論は、もう既に再三お話ししております。どちらかに決めて、付帯事項として考えていくということで進めたいと思いますが。

坂城と屋代南に関しては、多分大方の方は方向性を持っていらっしゃると思います。決める、決めないというところはご異論がありましたが、数字的なもの、あるいは検討材料として挙げていただいているものに関して判断すれば、どちらか一方に取れるであろうかという方向は私は持っています。皆さん方もそうではないかと思いますが、それも同時に考えてお願いしたいと思います。

(丸山委員)

時間もないので、松代と長野南、前回の議論の流れはそういうことでしたが、私はそれに対する意見を述べたいと思います。

ひとつは、前から意見を言っていますが、全体的に校数を削減しなければいけない、それは少子化だという全体的な状況はわかります。ただそれは全体的な状況でしか出ていないのです。それがなぜ松代か長野南かというのは、県の説明は説明にはなっていないと思います。

私自身も資料を出しましたし、前から言っているようにこの地域についてはまだしばらくは必ずしも減らす必要はないし、場合によっては多部制・単位制でひとつなくなるという可能性もあるわけですので、そのように述べました。

つまりこれこそ松代と長野南と決める決め手がない。ただしもし、将来的に減らさなきゃいけないということがあるとしたら、前回出たのは、19年実施ではなく、先延ばしにして実施する年度を決めたらどうかと。それを2つに絞ってという話が出ましたが、私はそのようにするなら、2つに絞るといえるのはおかしいと思います。

長野地区北部、それから須坂地区も含めてですね。どういうふうに減らしていくのかというところを議論をすべきだと思います。だから、ここではとても時間的にもできないので、それはそういう課題を提起すればいいと。それを、長野南と松代、どっちかにするんだということを前提にして何年か先に延ばすというのは、これはあまりよくないことではないか。延ばすという理由がですね。

延ばす理由なら、学区の流れを見ながらという意見もあったわけですよ。そうすると学区の流れ、生徒の流出流入を見ながらということだとしたら、それは違う学校を考えられる可能性だってあるわけですね。

だからこの問題については、2区の須坂と3区と4区の問題については、もう少し生徒の減の状況や全体的な状況を見て、いずれはその削減をする必要もある。それについて何年度くらいまでには検討すべきであるというようなまとめが、一番現実的というか、今までの議論の中ではそういうことではないかと思います。

もう一遍言いますが、松代と長野南は、どちらを取ってもこれは私とは反対。つまり前から言っているように、地域高校的な、その地域にその高校がなければいけないという部分について、この2校は非常に重要な意味を持っている。何遍も出しますが、中野地区で苦渋の選択をせざるを得なくなってきたのは、中野地区で学校がなくなるわけではないからです。

そういうこともあるので、やっぱりそれはそういう方向で。しかもそれは、小山先生が前回おっしゃったように、平成20年代後半にはまたさらに再編のことを考えていかなければいけないという話があったわけです。それは今わかっている31年まで、平成31年の削減、大幅に減るといえることがあるわけで、そうすると平成31年の削減を考えていくと、実は20年代後半には、また新たな第2次の統廃合が出てくる可能性があるわけですよ。

それについてはいろいろ私は個人的な意見は持っていますが、それはやめておいて、そこに乗っかっていくということだってあり得ると思うんですよ。そこに乗っけていくということもあり得ると思うんです。そういうふうな方向でのまとめをしてほしいと思います。

（市川委員）

確か私がこの間ご発言をさせていただいた中では、松代という名前が出て、まだきょうで2週間かそのくらいしかたっていないので、本当に議論を尽くしているかという、私は尽くしていない。その中で結論を出すのは非常に危険ではないかというのが感想でございます。

それで前回私が言ったのは、今、委員長さんが言った中でちょっともう少し付け加えてあったかなと思ったのは、原則的には少子化ですからこの統合問題は避けて通れないだろうと。しかし松代と長野南の統合問題については、何回かの議論がありましたが両校存続あるいはどちらかへの統合および広域的な観点から、これから検討すべきであって、少し時間が足りないというふうに私は発言したつもりでございますので、その辺をご理解いただきたいと思います。

（中村委員長）

ほかにご意見ありますでしょうか。

「広域的」といいますのは、第1通学区という側面または長野県全体での側面という解釈でしょうか。

（市川委員）

今から具体的に名前を出すのは、委員長さんもおっしゃったように非常に問題があるというので、私は具体的には名前は出しませんが、やはりそれなりきな少し広域的なところで削減すべきところもあるのではないかとということで、そういうことも踏まえて要するに総合的な、減らす数字を守るとしたら、そういうことを考えてやるべきではないかなと思

っているところです。

（中村委員長）

広域的というのは、今のご発言では第1通学区よりも狭い範囲のことですね。第1というのは旧ではなくて。第一推進委員会の範囲である、第1通学区ではなくてもっと狭いエリアですか。

（市川委員）

例えば、須坂などは入る。第1区。

（中村委員長）

一番最大の広域というのは、第1通学区です。ちょっと今の発言が違ってきますね。第1通学区には、旧第1から第4まで通学区があります。第1通学区には4つの区があり、その中で広域的とおっしゃっているのは、その4区全体を言っておられるのか、それより狭い集合を言っておられるのか。

（市川委員）

その辺、第1全部だと大変ですよ。それはあり得ないというか。

（中村委員長）

大変というよりは、それを検討してきたわけですね。

（市川委員）

ええ。ですから例えば広域ですと、旧第2と第4とか、そういうような観点で広域という意味です。

（中村委員長）

はい、わかりました。

市川委員のご発言の後に、さらにどなたか、小山（壽）委員でしたか松代と長野南高の統合はしないということで私が発言したのを、実際違うという解釈で発言されていますので、その辺いかがでしょうか。

今、市川委員は松代と長野南に限ったことではなくて、いわゆる広域的に判断していくようにということですが。それは、何も結論が得られていないんじゃないでしょうか。

（市川委員）

現実的に、それだけ難しい問題だということで提案をさせていただいておりまして、この松代と長野南という問題の統合というのは避けて通れないということも現実ですが、今ここでどっちをといることを結論出すのは、非常に問題があるという提案です。

それで先ほど言いましたように、松代、長野南を考えたときに、先ほど多部制・単位制の問題を含めて両校存続あるいはどちらかへの統合、先ほどの広域の観点からも、別の観

点で検討すべきである。これは確かに、具体的な名前が出ないというのは確かですが、それだけ出ることが難しさがあるということで、私は発言をさせていただいております。

（小山（壽）委員）

須坂地区については、これまでもたびたび発言は出てきているわけですが、須坂地区について具体的な議論をしているわけではありませんし、数字も持っているわけではないわけです。

旧第2通学区についていえば、中野地区で1校減ということがありますので、今、この段階でいえば、やはり長野南と松代の統合ということについては、どちらに統合するかという問題は別として、長野南と松代の統合ということについては決めてもいいのではないかと考えております。

流出入の状況については二ワトリが先か卵が先かという問題があります。しかし今の流出入の状況を勘案し、今後のことを推定していても、長野南と松代の統合は可能ではないかと考えております。

それとは別立てに将来的に須坂地区でもやがて統合が課題になってくるであろうというのが、私の発言の趣旨であります。ただ、須坂地区についての統合が課題になってくるであろうとは申し上げましたが、それはまさに将来的な課題で、次回の統合問題が出てきたときに、そういうことが出てくるであろうと思います。

須坂地区の統合と、この長野市南部の統合をトレードオフさせようという意味で言っているわけではないと。つまり長野市南部の統合をやめて、どちらか動きを図りながら、どちらかに決めるというような意味合いで発言したのではなくて、長野南と松代の統合については決めてもいいのではないかと考えています。

ただ、どちらの校地校舎を使うかということについては、もう少し慎重に検討する必要があるだろうし、統合年次についても19年度というのは無理であろう。それは計画年次を示すべきであると。実施計画の中で、それは推進委員会ではなくて、事務局の中でやってほしいというような趣旨で、前は発言させていただきました。

（塚田委員）

先ほどの多部制・単位制のときにも、ずっと議論としてやはり中心部というか、長野の周辺ということで意見が何回も出ましたが、具体的には校名が挙がってこなかったということで、やはり実際に具体的に考えられる坂城と屋代南ということで議論が進んだと思います。

同じことがここでも言えるのではないかと考えています。須坂ということも、何回も名前が出たのですが、では具体的な名前が現時点でも挙がってきてないということとなると、現実問題として第1でどうしても削減をしなければならないということを考えると、今、名前が挙がっている松代と長野南で、どちらかということで考えざるを得ないんじゃないかと考えています。

ただ時間的なことは、やはり皆さんから出ているように、もう少し時間を取ったほうがいいのかもしれないと思います。

(丸山委員)

その議論で、私が言っているのは、ではなぜ須坂と長野3区と4区、これを全体を見たところで、削減するのが松代と長野南なのかという理由は何ですかということです。北部への流出が多いという話ですよ。それは地域の意見から、私もここでも反論はしましたね。だから何でその長野南と、1校減らさなきゃ、どこか探さなきゃということが前提になっているから、どこか探さなきゃということでしょうが、ではなぜ松代か長野南なのかということです。

もう一遍ちょっと簡単に数字を言います。この前皆さんに配った数字の中で、2区では、19年と30年で5クラス減ります。でもそれは中野、中実が統合しますから、数的にいくとそれで解消できる。

3区では19年と30年では、49学級で同じです。それから4区では、19年と30年では4学級減るのです。多部制・単位制はどこかにいくわけです。今の流れでいけば。そうするとそこで減るわけですよ。

つまり19年から30年までの間では、減る分についてはそれで解消できます。だから私が言っているのは、ただしその先。小山先生がこの間おっしゃったように、もう少し先まで見越すと、さらに少子化が進むので第2次の統廃合が出てくる可能性がもちろんあって、それは20年代に後半に出てくると。そのときに須坂と長野市のところと、3区と4区の部分を含めたところで、松代と長野南ももちろんその候補に挙がったことがあるということも前提ですが、それも含めた形で検討していくところに乗っけていけばいいと。そういうことをここで提案すればいい。

だから今回の統廃合では、そこはやる必要がない。でも永遠にやる必要がないということではないと。直にそういうことが出てくるときに、広域、つまり須坂から4区までの広域で考えるべきであるということでもとめるのが一番将来の見通しを持ったやり方ではないか。それで私は数字を出しているわけです。30年までは、それでいけると言いたいわけです。

だから、ここで松代と長野南に絞って決定するという根拠がよくわからない。

(中村委員長)

ほかにございますでしょうか。

丸山委員のデータは何回も出てきていますが、もう既に改革を実行しなければいけない状況への対応、いわゆる平成2年から相当減少してきています。いわゆる地域校にしわ寄せがいつているのか、市内の高校クラス数が多いのか、その辺わかりませんが、既に減少してしまっている状況はどうやって解消したらよろしいでしょうか。

(丸山委員)

それと、それから今度減っていくものと含めて、さっき言ったように、今まででいたい方向性が出ている削減の部分で解消できていくと私は見えています。

(中村委員長)

事務局、お願いします。

(柳澤教育主幹)

今、丸山委員さんからお話がありました、その募集定員の予想の推定の募集学級数というこの資料で、今お話があったかと思いますが、これはあくまでも過去の現行体制を維持した場合の、それぞれの区ごとの予想の学級数を示してございますので、これから再編を進めまして、新たな長野県全体の配置が決まりますと、それに基づいての募集定員の定めということになりますから、この予想の募集定員の学級数を見て、直ちにそれがその区の募集定員とはお考えいただかないほうがよろしいかと思っております。

あくまでも、最終報告書で出されております、総数決定基準に基づいた各通学区ごとのバランスを考えての設定になっておりますので、その前提のもとで適正な規模、あるいは一定の規模が通学区全体あるいは県全体の学校規模というものが維持できると、こういうことで示されておまして、31年を見通してのことでございますので、その数字で見ていただければと思います。

(丸山委員)

いや、ちょっと違いますね。

候補案のときは31年を見通した計算ですか。

(柳澤教育主幹)

そうですその計算です。

(丸山委員)

計算しているんですか。それはそれでいいです。

もうひとつ言ったのは、予想した学級について今説明がありました、それはちょっと変な説明ですよ。予想したのは、どういう計算の予想ですか。今の区の中学生の数に対して、今までの募集定員の率を掛けてあるわけですよ。そうですよね。それで、それを40で割って予想学級数を出しているわけですよ。

確かにそれは、具体的にこれから検討していけば、そりゃ学校が減ったりなくなったり、あるいは学区制が大きくなったから、それで3年目になるからいろいろ流入、流出は変わったりしますよ。学校がなくなれば、どこへ行こうかって迷うわけだから。だからこのとおりにはならないのは確かです。

でもね、1、2、3、4区全体で見ると、いろいろ動いたとしてもそれぞれの計算上、それぞれの学級数はそろえておかないと入れない子が出るじゃないですか。そういう計算ですよ。ほかにいろいろ動くから、この数字はあまり信用おけないって数字だって、そんなこといったらこの数字はどういうふうに考えたらいいいんですか。だからこれは、予想学級数をやった結果、こうやって減ってくるから減らすんだという話ですよ。

だから、ちょっと説明おかしいですわ。

(吉江高校教育課長)

ちょっとよろしいですか。すみません。

(中村委員長)

事務局お願いします。

(吉江高校教育課長)

今、私どもで説明したひとつのきっかけは、丸山委員さんのほうで学級数の言及をされましたが、例えば第4区は平成17年は38クラス、それが私どもがお示ししている31年は31クラスになるんですね。7クラス減になると。これはもう予想も、いわゆる実数に基づいての予想だということの中で先ほど事務局といたしまして申し上げた次第です。

ですからこれをベースに私どもは基本的に、第1通学区全体を見渡して、ほかの通学区と同様の積算の上で算出したものをお示ししているということでございます。ですからその議論を、前々から丸山委員さんにおかれましては議論をなさっておりますが、私ども31年まで見渡してトータルで見ているというのは、これはどこの通学区ということに限らないということでご理解いただきたいと思います。

(中村委員長)

ほかにご意見ありますでしょうか。

今2つに分かれていると考えてよろしいですか。松代高校と長野南高校、どちらの校地校舎を利用するかは検討していかなければいけないが、その統合を基準として、統合の時期は検討して示す。

それからもうひとつは、松代、長野南、これはよろしいんでしょうかね。それと須坂地区とを含めた2区、4区の中で流出入を見ながら、動向を見ながら考えていく。細かい点、違っていませんか。それでよろしいですか。この2案ということでしょうか。

もうひとつは、県教委が示した再編候補案ですね。

何かご意見ありますでしょうか。

(丸山委員)

2区、4区ではなく、私が言っているのは2、3、4区ということです。

なんで3区の削減が、外れるんですか。

(中村委員長)

それは、その案に含めてよろしいでしょうか。

(丸山委員)

私が言っているのは、2、3、4区を含めてどこか減らさなくちゃいけないことになったら、考えるべきです。

(中村委員長)

範囲を広げれば、広げるほど余計、統計の数字が確定していくように思いますが。確度は高くなってきますね。

(吉江高校教育課長)

よろしいですか。

(中村委員長)

事務局、お願いします。

(吉江高校教育課長)

私ども教育委員会事務局としての方向づけといいますが、ひとつの問題点を今のお話の中で申し上げたいと思っておりますが、一定の方向性を、ある意味ポイント的な形でお決めいただかなくて、面的な形でお決めいただくとなりますと、どこの学校も常に対象校になり得るという可能性があるという問題が出てきます。

それで対象校になり得る学校が、いくつもがあり得ることになりますと、それらの学校に対しての、いわゆる当然ながら維持修繕的なものも含めての経費を投入というようなことを、はたしてやる必要があるのかどうかというような議論も当然ながら方向づけがされるまでの間は出てきてしまうというような問題が、どうしてももし面的な位置づけでご検討いただくとなると、そういうような面が出てくるのかなというような懸念をしているところでございます。

(中村委員長)

ご発言いただいてない方で、ご意見ありますでしょうか。

挙げ忘れましたが、松代高校の校舎を利用するという案は、それは、12月に挙げたのですね。ですから2週間前にはなります。12月、2週間前ですか、3週間前か。議論は、あまりしておりませんが、その案は選択候補の中からはどうでしょうか。

(市川委員)

松代の校舎を利用する案ですか。

(中村委員長)

そうです。再編整備候補案では、長野南高校の校地校舎を利用するとなっておりますが、それを松代の校地校舎を利用するという。

(中沢委員)

逆です。

(中村委員長)

ごめんなさい、逆です。長野南の校舎を利用する。

（市川委員）

それが出たのが12月の20幾日で、それで地域として検討しているときで、それをすぐこの中で結論を出すのは早急であるということで、私はそれは反対しているということです。

（中村委員長）

はい。

（市川委員）

はい、そういうことです。

（中村委員長）

議論の方向性を得るために、今挙がっている案を確認したということで、すみません。

（若麻績委員）

案の中のひとつに、先ほど流出入と表現されたと思うのですが、それと合わせて、やはりその5.5学級、6学級ですね。そういう今回の基準を決めたことに対して、何年かの間に募集定員を割っていくということが、ひとつの基準に対しての判断になるんじゃないかということを付け加えていただければありがたいと思います。

（中村委員長）

それは統合の時期を決めるときという、意味ですか。それとも、統合する学校を決めるとき。それぞれの案に対してと、そういうことですね。

（若麻績委員）

両方です、そうです。

（中村委員長）

それは瞬間値でよろしいのですか。その辺は、議論をすればよろしいかと思いますが。

時間が迫ってきていますが、第二推進委員会では、延長ということもやっておりまして、委員さんそれぞれお疲れのところもあるでしょうし、ご都合もあるでしょうが、どういたしましょうか。

これも課題を挙げて、あるいは優位性を判断してということで、どれかの案に集約していきたいと思います。

（清水委員）

この長野南と松代の問題に関してのみ私が思うことは、まとめ方はどういった方向になるかということも、全部度外視して、まずこの場においては先ほど小山（壽）先生がおっしゃった方向でよろしいのではないかと考えています。

つまり中野地区の話がある程度の方向づけが出ている。今、現に上っている松代と長野

南の、この2校について焦点を絞って話をしていく。そういった方向が私は正しいのではないかと考えています。

まずそこを、こういった方向で、こういったことをベースに話をしていくかということについてのみがこの場で決めていただいたほうがよろしいのではないかなと思います。つまり、いくつか案がありますよね。

（中村委員長）

そうです。はい。そのために各案の課題、問題点、メリット等を挙げていただきたいと思います。案をいきなり決めて、それについてということではなくて、今、並列だと思えますので。

清水委員のご意見は、2校の統合を前提としてという。時期に関しては、何らかの基準で決定していくということです。その何らかの基準は、5.5学級募集定員の流出入を考えて募集定員を割ったかどうか。これは今までどおり県の教育委員会が決めているような形で募集定員を決めながら、それに対して募集定員を割るかどうかで決めていくという。

先ほど、卵が先かという話がありましたが、そういう話にはなるかと思いますが。

（小山（元）委員）

長野南と松代の場合、前回でもお話ししましたが、やはり現段階ではそれぞれの地域のことでも大事に考えまして、皆さんからお話が出ておりますように、今すぐ統合するところまで、やっぱり必要性は感じないが、しかし将来的にはこれは当然統合していかざるを得ない現況になっておりますので、そういう将来的な展望に立って、他の今出ました2、3区ですか。旧2、3区までも範囲内ということは、統合を考えないで、やはりこの2つのところは2つのところとして考えていくべきじゃないかと思っています。

そしてやはり将来的な統合は、やはり避けられないというその立場で、どちらかへやはり統合していきたいが、私の場合ならばどちらというのは、前回申し上げてありますからその方向で進めていくべきじゃないかと。清水さんと、同じような意見でございます。

（中村委員長）

時間がまいっていますがどうしましょう。都合がよければ。

（市川委員）

今のような意見の中で、もしそうだとすれば、一番最初に私が申し上げた多部制・単位制とのかかわりを、ぜひその中に入れてほしいということをお願いします。

（中村委員長）

「かかわり」といいますのは。

(市川委員)

例えば、一番最初に申し上げましたように、例えば屋代南となったときには、3校の普通高校が1校になってしまうということ。これでいいのかということですね。長野南と松代で、どちらかへ統合すると普通高校が1校減ります。

それで屋代南が、普通高校が多部制・単位制になると、そこでも普通高校が減ります。そうすると3校普通高校があった中で、2校減るということです。私はそれはちょっと、あまりにも子どもに対して選択の余地がなさすぎるんじゃないかなということで、一番最初私が発言をさせていただいたわけです。

(中村委員長)

その選択の結果を見ていくということになるのではないのでしょうか。

多部制が決まる。坂城か屋代南に決まったとしますね。その結果...

(市川委員)

これは私の意見でございますが、仮に多部制・単位制を屋代南と決定したときには、普通高校が3校が1校になることは避けるべきであって、松代と長野南は存続するべきであると。そうすると、一番最初の原理原則が崩れるので、私が言った広域的ということで提案をさせていただいたということです。

(中村委員長)

検討している、そのもののように私は感じてしまって、主張がちょっとよくわからないのですが。

すみません。時間が過ぎていますが、30分に限って延長してよろしいでしょうか。1月はもう、これ以上はデッドラインは延ばすことはできないと考えます。中学生への影響等大きい。それからもうじゅうぶんに議論は尽くしてきた。最終的なところが、皆さんの意見調節がなかなか難しいところが残っているため、ここまで来てしまいましたので、あと25分お願いいたします。

それで、ある程度詰めていきたいと思います。

(丸山委員)

2校、松代と長野2校に絞って、どちらを使うかということと、実施時期については先延ばしという、決めるが先延ばしするという、何故先延ばしするかという問題ですよ。これは生徒の動き等を見てということじゃないんですか。

つまり生徒の流出入や、そうしたら統廃合進んでいくといったり、いろいろ状況が変わったりするのでね。生徒の統廃合や生徒の呼び方等も含めてみて、何年度ぐらいでやったらいいのかということを決定するということですよね。

そうすると私が思うのは、さっきから言っていますが、長野南と松代と限定する理由はなんですか。そこまで検討するなら、例えば何年度ぐらいのところに実施できるような検討を地域でやらないと。いわゆる広域と市川さんはおっしゃっていますが、須坂、3区、4区というところで検討するのでいいんじゃないですか、そういうことを提議しておけばいい

いんじゃないですか。

さっきの県教委の心配というのは、いつでもあり得ることですね。これで統廃合は終わりますか。そうじゃないですよ。ならば、どこだって今後どんどん出てくる可能性があるわけで、それはある程度この地域について何年度ごろまでには検討するということを出しておけばいいわけであって、そのときにもしですよ。もっと逆にいうと、松代と長野南を減らすことが妥当だということだったら、すぐなんで、すぐできないわけですから。

(小山(壽)委員)

今、丸山委員さんが統合に賛成する立場で発言しているのではないと思いますが、ひとつは生徒の減少がこの地域において直ちに急激に進行しているわけではないということはあると思うのです。

だから先ほども市川委員さんがおっしゃったように、3校という言い方をしているわけですが、確かに近接している学校が、普通高校が1校になるという問題があるんですが、ただ例えば第4通学区の中で見ていけば、別に3校が1校になるわけではないということはあると思うんですね。

やはり通学区制が、12通学区制から4通学区制に変わったということは、大変大きな変化であったわけで、その結果16年度の入試、それから17年度の入試、その状況を見てみると、やはり旧第3通学区への流入は非常に多いと思います。

それから、第2通学区も大変流入状況が多いということが言えるだろうと思うのです。恐らく今後、そういう動きを見ていると加速されるであろうということが予想されるわけです。さっきニワトリと卵という言い方をしましたが、背景にはそういう問題があるわけです。

特に例えば第2通学区への流入といった場合、どこから第2通学区へ流入しているのかということについて、今細かいデータがないわけですが、恐らく予測とすれば旧第3通学区から旧第2通学区の中でも、殊に須坂地区へ流入しているんだろうということが予想されるわけですね。

須坂地区については、じゅうぶんこれまで推進委員会の中で検討してきてないわけです。その流出入の状況はどのようなっていくのかということは、学力検査をまだ2回しかやっていませんし、あるいは4通学区制による流出入というのは、2年しかやっていないわけです。

県が出している募集学級数というのは、流出入は勘案していますが、恐らく前2年か、前3年ぐらいの流出入を平均値で出してやっているだろうと。これは今後4通学区制が定着して、旧学区間の流出入がさらに流動化していくというような状況を考えるならば、当然検討していないところについて、新たに問題を提起するよりは、今まで検討していくということで、決定をするべきだと思います。

そういう意味では、長野南と松代の統合ということは、ある種必然的な問題として出てくる。ただしその統合時期について、そんなに急に多部制・単位制の問題もありますし、一遍にという必要はないであろう。

どちらへということについても、議論はじゅうぶん交わされているわけではない。ある種まだ推進委員会の中でも2回目ですかね。3回目ですかね、そういう状況で。ただ、そ

う前々から長野南の地域が、人口が非常に急増している地域である。それから通学の利便性といったときに、はたして屋代線が通学の利便性ということで妥当かどうかという疑問は、いくつも投げかけられていたわけですので、これについてはやはりどちらへということについてはもう少し考えたほうがいいだろうし、地域の方たちも今提案されてきてどうしたものか。多分恐らく地域でも議論がなされているであろうと思いますので、これについてはもう少し、時間をかけてもいいだろうと思うわけです。

流出入の状況が、どのように今後加速していくかによって、恐らく旧第3通学区でも旧第2通学区でも新たに統合問題が出てくるだろうと思います。これは子どもの減少というだけではなくて、流出入状況が、今後さらに一層流動化すれば、そういう問題は早晩出てくるであろう。

ただ人口が今どういう動きであるかということは、もう目に見えるわけです。数字として出ているわけです。これも、じゃあ流動しないのか。例えば今、2歳、3歳の子どもを持っている家庭が、もっと住居を変更していくということだってあるじゃないかということとは当然あるわけです。

それはあるわけですが、それについては一応そんなに大きく変動することはないだろうと思います。しかし流出入の状況というのは、まだ4通学区制が始まったばかりですので、今後さらに一層流動化する、そういう可能性はあるだろうと思うわけです。

そんなことも含めながら、先ほどのような提案をさせていただいたということです。

(中村委員長)

関連して、ご意見ありますでしょうか。

特にどの案に注目するというわけではないのですが、決断をする条件ですね。先ほど定員の話が出ていました。募集定員の話です。その基準に基づいて決めるというのは、1年遅れるわけですね。決定するというのは、そういう手順で、機械的に決めるということなんでしょうかね。

実施時期を検討していくという、その中身をやはり示さないといけないと思います。教育委員会に任せてもよろしいかと思いますが、それでは実施時期を見送ってどうするのかというところが、答えになっていないと思います。

(若麻績委員)

客観的な判断基準ということで、ひとつのテーマであると思いますので、募集定員ということが注目されるべきだと思います。それは、1年という中で判断するというのは、やはり熟さないのではないかという気がいたしますので、やはりその中で3年間とかいう一定の時間を要するとは正直思います。

しかしそれがいいのかどうかと、先ほど教育委員会さんのほうからも予算のことが出てまいりましたが、それはもう承知の上で、みんなその理解を深めていくということにウエイトを高めた考え方であります。

とはいえ、先ほど、そればかりはずっと先に延ばしたというような感覚でいるのもよろしくないと思っていますので、やはり飯山、中野地区でしっかり議論をされて今回もテーブルにきている。また多部制・単位制も今、ひとつの方向性を見いだそうとしていると

いう状況バランスの中で考えますと、小山（壽）先生のおっしゃるこの2校のことはしっかり議論をして、そのところに今回の3年というような付加した部分を盛り込んでいくという考え方も、私の中ではひとつ思っております。

（中村委員長）

ご意見ありますでしょうか。

（宮本委員）

今の、バランスということを言われましたが、ある程度今、小山（壽）委員が言いましたが、いくつかの案が出ていますけれども、その中で検討して結果的にどんな結論が出るかわかりませんが、やることには賛成です。

定員の充足率を見るというのは、やはり難しいところが現実問題として、ほかの地域や、あるいはその地域に、あるいは高校側に与える影響というのは、かなり大きいと思いますので、やはりこの場面で情報として知り得た中で判断して検討していく。

そして結果的にどうなるかわかりませんが、そちらのほうが私はいいと思います。

（中村委員長）

ほかにご意見ありますでしょうか。

確かに充足率ということが前面に出ますと、相当プレッシャーがかかっていくわけですね、高校に対して。教育効果が上がればいいでしょうが、悪影響が出る可能性もある。

広域的に見ていくというご意見のほうに関しても、同じことが言えると思いますが、どうやってどこの学校に判断していくのか。これは継続的に教育委員会が見ていくのでしょうか、それとも何か組織を立ち上げるのでしょうか。そんなことは考えなくてもいい、任せたということなのでしょうか。

やはり、あんまりあいまいなことを決定するのは、非常によくないと思います。何度も言いますように、中学生への影響が大きい。ある程度話し合った中で決断していく必要があると思っています。

これは当然、今日結論が出ないと思いますので、あと残りの時間で今後どうしていくかということを少しご発言いただきたいのですが、これは、あと1回でしょうか。報告書をまとめる責任もありますので、それに関して時間を多少割く必要がありますので、1回は確実だと思います。それで1月を超えることは、それは考えなくてもよろしいかと思うんですが、その辺ご意見をいただきたいと思います。もし超えるようであれば事務局にもコメントをいただきたいのですが、そうなれば今までのすべての議論がまた再燃してしまう、きりがいいですね。

時間の中で議論を尽くしてきたと私は考えていますのであと1回。申し訳ありません、12月というのが延びてきてしまいました。なかなか難しいところへ来れば来るほどやはり。発言が繰り返しになったり戻ったりしてしまいますので、1月中旬も少し守れなかったのですが、あと1回ということは何を議論すべきか。報告書はいいですね。それと多部制・単位制の配置に関して結論を出す。それから長野南高と松代高校の統合に関する候補案に関して、対案なり結論を出していく。その3点でしょうか。

あとは先ほど青木委員、中沢委員から言われたとおり、委員長が案を、文章を作る。それに対してご意見をいただいて。報告書の骨子については、以前示したとおりでございますので。

（丸山委員）

かなりまだいろいろ意見がありますが、そういう日程もあるのである程度委員長さんのほうで文章をまとめてもらってということになるんだと思うんですが、それで新しいことを付け加えちゃいけないという話ですが、その委員会の議論ではこういうことがあったということを事前にこう連絡をして、直してもらおうということがあると思うので、そういう作業をするとしたら来週では難しいんじゃないですか、期間を置かないと。

ただその文章を見て、事前に意見は言ったとしてもまとまった文章…。

（中村委員長）

委員会の開催日ということですね。

（丸山委員）

意見を事前に言ったとしても、委員長さんのほうで仮にまとめてもらって直してもらって、さらにそこに対してこうだこうだという話があるのを1回で済むだろうかということがあるんですけど、そういうふうにしたとしても1回だとしても、やっぱりいろいろその文章の検討とかもあるので、例えばこの1週間先に最後をやるというのはきついんじゃないか、もう2週間ぐらい取ったほうがいいような気がします。

（中村委員長）

はい。

（丸山委員）

それは、委員会の日程上無理があると思います。

（中村委員長）

1週間先にとることは日程的に無理です。月末しかないと思います。これは皆さんの日程ということですが、私は次の土日は仕事の関係でどうしてもだめなのです。月曜日とか金曜日ということであれば可能かもしれませんが。

それと皆さんからご都合の紙をいただいて、ファックスなりいただいておりますので、それを見て1回、少し時間を置くようなところに設定させていただくということでよろしいでしょうか。

ほかに何かありますか。

特になければ、事務局からだいたい日程を、皆さんのご都合のよろしいところを教えてくださいいただければと思います。

（三澤教育支援主事）

以前に1月のそれぞれの委員さんのスケジュールについて、ご都合を伺っておりますが、それを考えましてちょっと間を空けて、なるべく多くの委員さん方となりますと、午前中がよろしいかと思えます。

またちょっと調整をさせていただきながら、ご案内申し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。

（中村委員長）

ほかにございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、第17回の高等学校改革プラン推進委員会を閉じさせていただきます。大変お疲れさまでした。